

都林泉名勝圖會

二

E  
163  
3

逍遙文庫  
文庫 6  
1875  
3





地  
8  
5

都林泉名勝圖會卷之貳

目錄

赤山社 香神社 金神社

什寶

義政公御式目

氷室古跡

吉田山遊宴

南禪寺 方丈什宝 虫干帳

藤在御公別業蹟

聽松院 管林靈夏松 勅使石

牧護菴

南禪寺湯菽腐店

陽成院陵

慈照寺 東求堂 茶水井

東山殿御會和歌

河合納涼

中山忠親公旧蹟

西翁院反古庵

南禪院 心字塔

菩提樹院址

瑪瑙院 同ク記

金地院 衛山社 堂

知恩教院 法丈石

冷泉院陵

銀閣圖

集芳軒

惺窩先生幽居蹟

卜部家齋場所

光孝寺 瑪瑙平水塔

龜山法皇古墟

寶莊教院址

歸雲院

白河離宮

御忌新相

後一條院陵



東京  
青蓮院

東京武蔵野  
蘇州百拾畝  
坪内権藏

春の日は  
あつらふ  
赤山  
乃茶の  
五形  
こころ  
月  
さうら  
松



栗田院  
圓山  
端寮花洛落法阿弥  
勝興庵正阿弥  
皇太后妍子塚  
高慶寺  
小方丈  
祇園社  
祇園御輿洗遊物  
巖阿弥  
長青梅

青蓮院  
多藏庵春阿弥  
多福庵也阿弥  
將軍塚  
長樂寺  
方丈  
遠州長喜庵  
双林寺  
靈山叔阿弥  
下河原女伶會

大谷寺  
延壽庵連阿弥  
長壽庵左阿弥  
上東門院塔  
蔡美園院  
傘亭  
文阿弥  
珠阿弥  
正法寺





林二貳



赤山神祠

修學院邑のいみじく僧の安惠慈覺大師の顧命小僧

あふ社と建る元亨社頭釋者の林泉玲瓏世小勝宅の附當社の神と受く家母特小近張るひひうした應土の天鼓山に樹り宮家あり

修補ありく比叡山小伽藍と建立し王城の神鬼門金神の守護し殿壯由縁麗東求堂の中一中央に相阿弥のとあり

總照寺銀閣足利義政公の別莊の足利義政公の別莊村ありの別莊東求堂の中央に相阿弥のの

の苑多腰障子琴其書画の圖く梅聖永納る支腋の蘭水仙る相阿弥のる東向る

殿准二宮喜山の居士と稱台齡と五十六り此向の竹小若松に相阿弥圖方丈の

中の向海小友若の仙人畫る東の向る逍遙軒の山水く西の向る山水る

の砂子と隈ちくく希代の名茶水井東求堂のわあり沸水の

集芳軒堂後あり近世の造立し維明和尚の梅長形の画入る

○足利將軍義政公永亨八年正月二日小誕寶徳元年四月廿九日征夷

之將軍小任亨徳二年二月小従一位叙同年十二月源氏長者と淳和

并學兩院別當小補次應仁元年山名宗全威と衣ひ管領細川勝元也

合我事さくい時勝元主上上皇と逢り三種神呂氏持く室所

花清祈りきりきりきり將軍室勝元と於く意と宗全及ききり子氏

控て日々圍我とい騷擾小南禪寺相國寺及寺院多焦土とる其外洛

中洛外諸侯等氏家等兵火小罹との小事かくあまり應仁乱りの小

い時本朝旧記諸家文書兵燹小焼亡終矣とる事教志と同六年又明

國の勅令れりと求む應仁元年より十年まく諸人名みふ其領國と守て

割據の形勢あり尚山名細川の徒洛中小對陣次將軍と足利義尚公小讓と

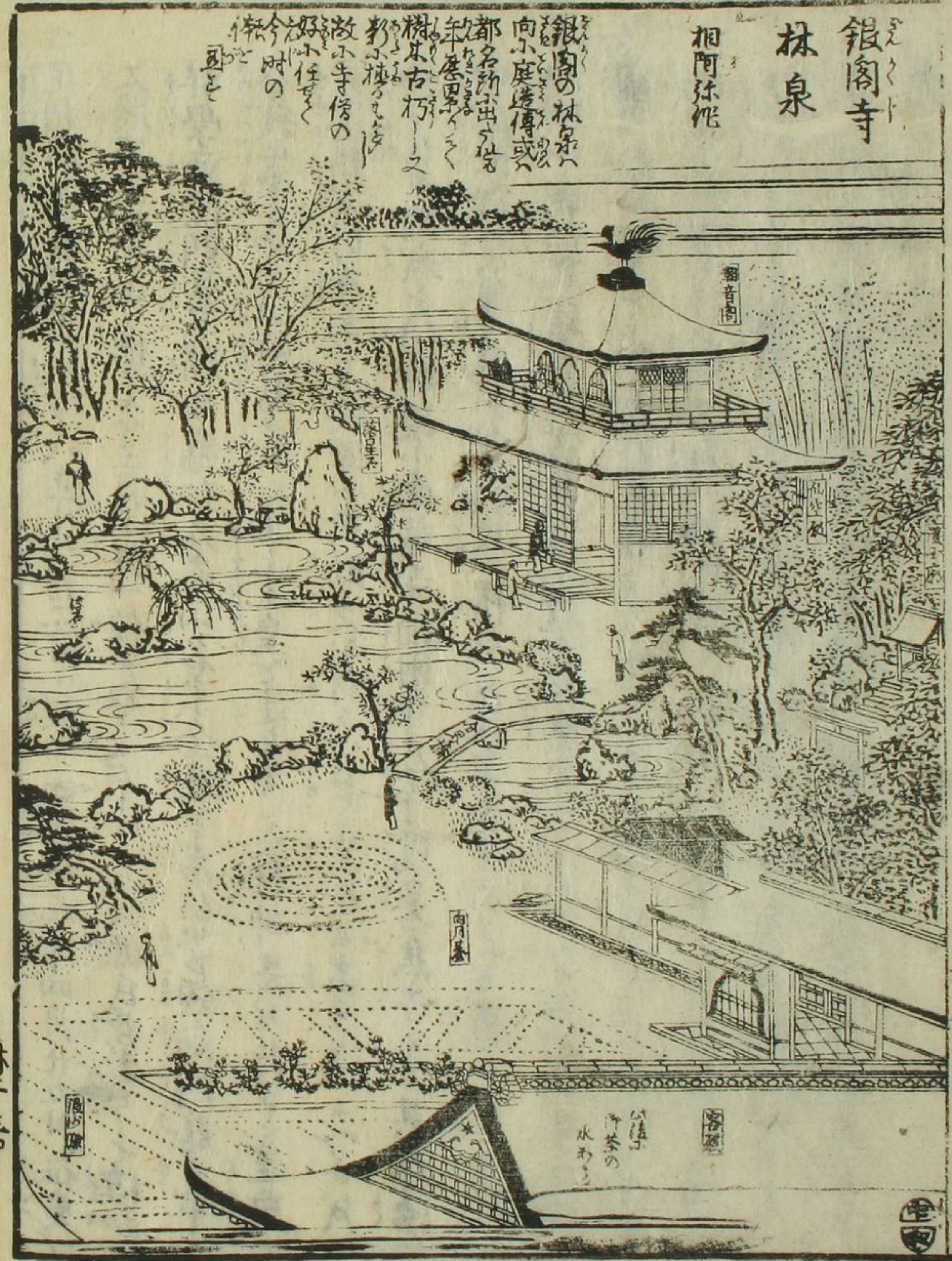
東山慈照寺銀閣と建る古器名画と玩び芳若名成喫く幽棲次世子

東山殿より延徳二年正月七日征夷之將軍從一位准二宮源義政公

薨とる年齡五十一太政之長成勝也

林二三三





銀閣寺  
林泉  
相阿弥作

銀閣寺の林泉  
向小庭邊傳或  
都名所出  
秋葉  
樹本古  
新小橋  
漱小寺傍の  
好小任  
今時の  
作  
画

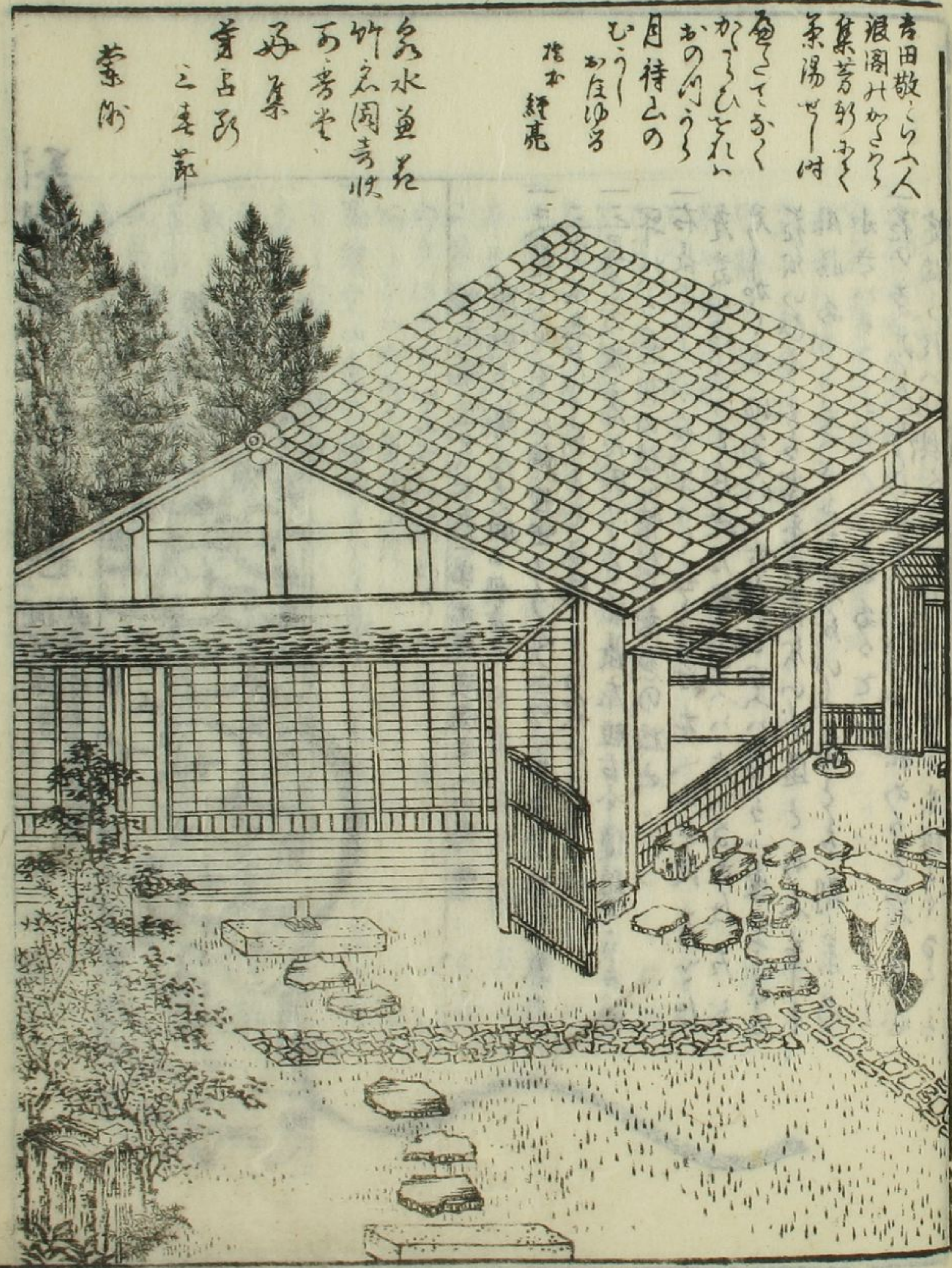
林三

水  
茶の  
水









香田敬らへ人  
 浪園ハカ  
 集芳軒  
 茶湯  
 金  
 か  
 おの  
 月待  
 じ  
 お  
 松本  
 経虎  
 名水  
 竹名  
 可考  
 好  
 芳  
 三  
 茶  
 茶



銀閣  
 集芳軒  
 松本  
 経虎







右の飾り多れり下にて是押板より右のふれ  
 尾小よりく花小対しとくや又一物より  
 押板の中又也  
 遠廻りの開着燈と蓋が本之其外のおら志の侍  
 色にやう小見とくひくくく食籠一酒の  
 入物一盃一茶碗の物ありはそ敷の物一茶籠  
 箱一うけはく一壺一ぬは物の敷物々元合白  
 て控板と色紙と赤白黒とて並ん  
 ちうひの立花のふれちうひの正とて並也  
 細口蘭筒此風信さうの中の桐子で控く又双花籠  
 小ハ下の重小立とて也  
 一粒茶籠の花を下れ花小同さうりかうくさか  
 切したあかりの飾り  
 佛祝と祝言の花の飾り山志たを枯枝かとして禁ん  
 茶心の花の枝とそく魚くく後野乃新  
 みるくく祝云ふとつと  
 花籠のたふ花籠のたふより下へみまをる物も  
 木の心くくは禁忌とくはかくくくくくく  
 三具足の番合ハ口二寸あり小ハの柱  
 風初の日とてはる事ハ押板の角柱の四分半の面に  
 洗ひ紙かへし繪の中居りのと紙置琴の糸也  
 押板の高さハ敷居より八寸但一写するく七寸又分と  
 知らさき尺七寸也  
 粒飾の釘らさきよりみす下也又客殿ありう川  
 事かうれ書院又ハ小座敷の物也

風鈴の飾りも楳の飾り本小かう也日本より度楳乃  
 又井もかきく又客殿の中央の庫の上も掛  
 又ハ押板の飾りもきくくはか  
 火の飾りとは押板の糸又半写押板の糸 仰あ  
 命と掛  
 喚請の書院の文井の中福にはるや  
 茶の湯ハ公方様の所成の前も書院のかうくちうく  
 小生くの本也 御出ましくはあ引くく納と付るの  
 本なり  
 多れ小盆と並付と建蓋と蓋もを多くそれとく  
 茶うら右も茶籠左も壺中も茶酌と並也  
 うかひ茶碗と蓋にそくく多れのとた物もは事  
 あり又建蓋と一盃み入と 蓋ともた一物小とく  
 事也作  
 庫の心小本盆せうの事古今の事小  
 夏山の茶籠乃多きせあられけふ  
 妻見一と松人くく  
 是奇の心とつ付る其心小くくあきくく中せく  
 多ゆくくく  
 花の枝とてはる事多忌事おほくくめたを  
 の枝とく同と紙とみあり枝とくくくくく是も  
 人のきりお盆多るくくくくくくくくくく  
 枝とくく面へは枝是又豆人とけを写忌也  
 茶も心面へは心むくく事又同茶とてあ方  
 へ同と取りみくくく事くくくくく又十又  
 字の枝とくく忌くくくは本本のゆきよとく



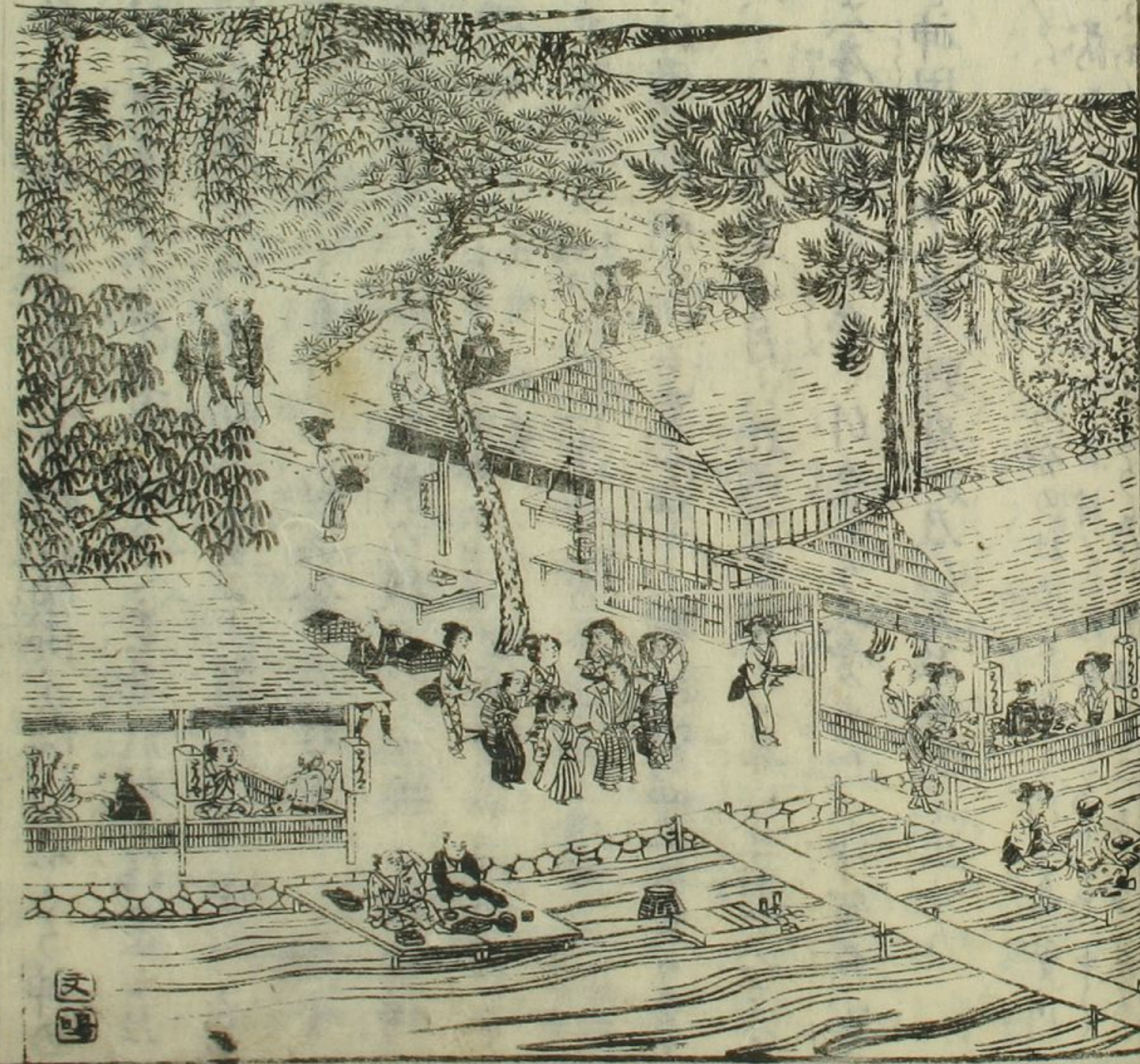








名川や  
 せせと川の  
 月さかると  
 半のひくき  
 長明  
 涼しく  
 ありぬ  
 萩川  
 萩島



涼納合の河













九月蕈香  
能引火  
烟蘿巖  
徑起紅塵  
松林自絕  
磨麿跡  
剎見綺  
羅雲外新  
皆川允



吉田山遊宴





黒谷西翁院  
反古菴

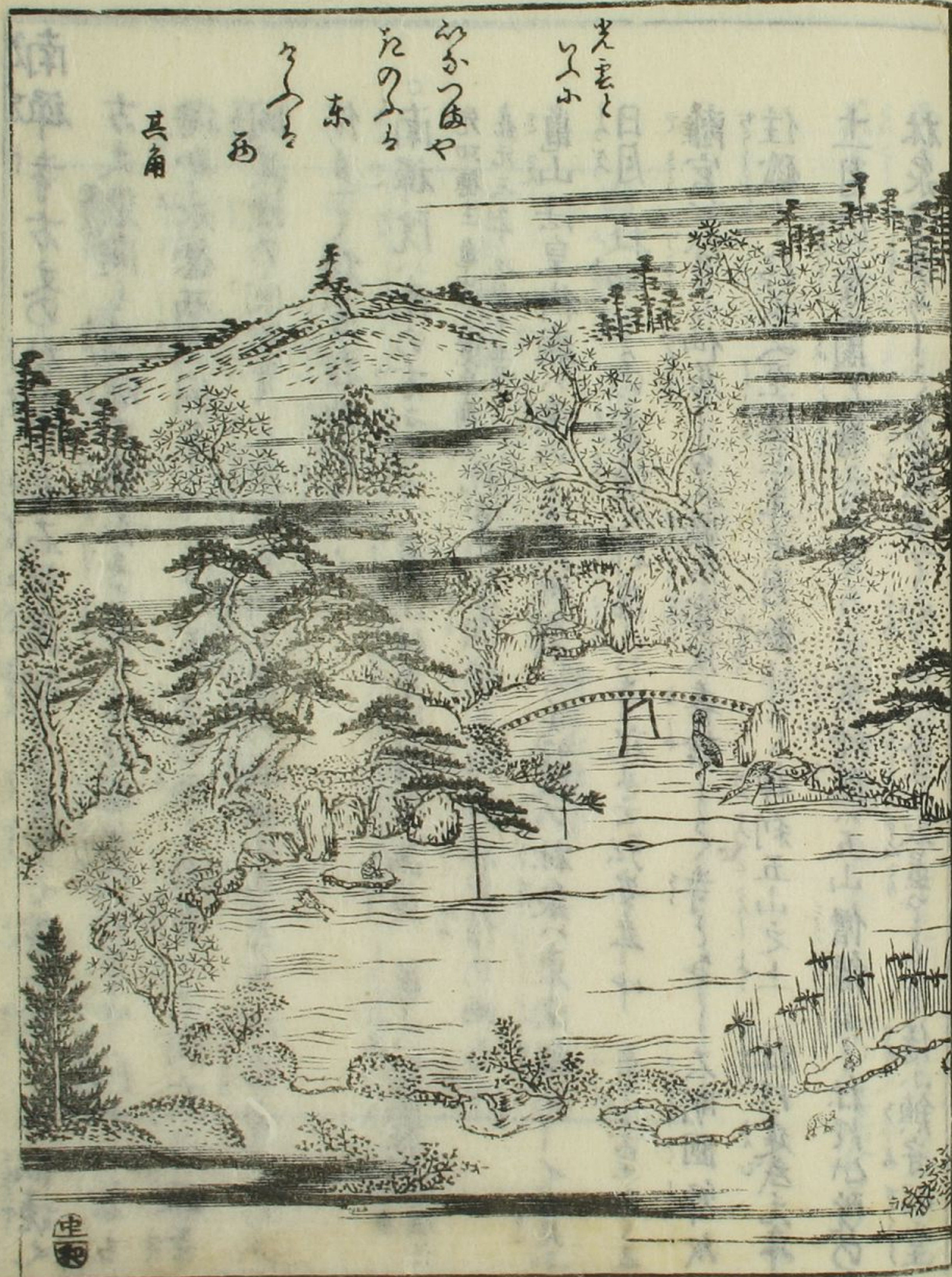
藤村庸軒  
伯



後世の  
可き事ひ  
多し此戸の  
子ゆのゆきと  
その名も  
八幡  
美濟









南ミナミ禪ゼン寺ジ方丈ホウチャウの林泉リンセンの奇石巨巖キョウイワン礎ソコを夢七ユメシチ澤タクと廟ミヤウの仙境セウキョウを  
 方丈東向ホウチャウトウキョウと鳴瀧ナリタケの圖ツは多等タトウの古法眼元信コホクガンゲンノブの筆ヒツ中向チュウキョウ廿四ニヤウジウ孝コウと  
 将也ショウヤ永徳エイトク西向セイキョウ同筆ドウヒツありて花鳥カニョウの画エ之西表セウサイ一之向イツキョウ古法眼コホクガン筆ヒツ  
 同其次ドウジツの向次キョウジツ之向キョウ共キ竹チク小虎ショウコの画エ世ヨ小水ショウスイ石虎シキョといふ  
 何ナニとも将聖ショウセイ探幽タンユウ此筆コノヒツ也  
 南ナン禪ゼン院インの南ミナミの方ホウあり 龜山キサン法皇ホウの離宮リキウ之中央チュウヤウ 龜山キサン法皇ホウ宸影シンエイ 續ツキ云  
 先功徳センクツク主ヌ龜山キサン太上トウジョウ覺皇ケクワウ崩殂ホウキ 此堂内コノドウノウチ之向キョウ俱ク有ユ将所ショウジョ常信ジョウシンの画エあり  
 嘉元カゲン三年ニヤウ九月ク十五日ジツ 龜山キサン法皇ホウ御廟ミヤの南ミナミの上方ウヘノウヘ所トコロありて心院シンインの林泉リンセンの東南トウナン鮮センありて實マコト小  
 日月ニツギツと扶助フジョするの靈境レイキョウと梓山ソノヤマの寺ジ記キ云イハレ弘安コウアン年中ニヤウ 龜山キサン上皇ジョウありて  
 離宮リキウと營イナく仙居センキョありて厥后ソノノチニ宮ミヤ亦モ喜捨キツセありて寺ジと名ナ大明ダイメイ國師クニシ成  
 住職ヂュウシヨクありて又マタ至徳シトク二年ニヤウ七月シツ勅トウありて禪刹ゼンシヤク五山ゴサン之上ノヘ 称イハレ建武ケンブ元年ニヤウ  
 十月ジツのイハレ園エン大曆ダイリキふんハシあり。金地院キンヂインの五山ゴサン僧録ソウロク司シと称イハレは院インの  
 林泉リンセン佳境カキョウありて名叢ナソウ多く心ココロといふ文字モノジふ双フタ並ナラりて其ソノ傍ナリ小鎮コチン守昭シウショウ堂ドウ

あり南方ミナミノミナミに 御宮ミヤありて方丈ホウチャウの南面ミナミノオモテありて中之間チュウノマ仙人セウジン畫エた右ミドリと云イハレみ  
 花鳥カニョウをみりて将聖ショウセイ尚信ジョウシンの筆ヒツ之其外ソノソノ崇徳ソウトク院イン玲瓏レイロウありて山之佳境ヤマノカキョウあり

南ナン禪ゼン寺ジ方丈ホウチャウ虫干ムシカミ之ノ体テイ

出山シュサン釋迦シヤクヂヤ 逐ツク菴アン

東ヒガシ之ノ間マ 将也ショウヤ永徳エイトク筆ヒツ

小コ十六ジュウロク善神ゼンジン

山水 <small>サンスイ</small>	仇英 <small>キウエイ</small>
觀音 <small>カンオン</small>	牧溪 <small>マクセ</small>
山水 <small>サンスイ</small>	仇英 <small>キウエイ</small>
觀音 <small>カンオン</small>	唐画 <small>タウガ</small>
卓 <small>タク</small> 御書 <small>ミカキ</small> 之間 <small>ノマ</small> 永徳 <small>エイトク</small> 筆 <small>ヒツ</small>	
學 <small>ガク</small>	



大十六善神

琴

碁

書

畫

孫通

西之間

承德

康富記

勸修寺淨廣卿等

羅六十

文孫

釋迦

思恭等

普賢

毛鷲之間

古法眼

七朝園師香陽

最嶽和崇

蘆葉蓮意

南院園師  
自畫護

十六羅漢

眠鷲之画 萬國禪

後之間

乃母主馬

象画思恭

貴安園師像

羅漢坐金居士等

普明園師頂相

臨濟禪師頂相

石丈禪師頂相

尊嚴寶

木多園師頂相

日梅 常布信

竹鶴 安信

龜山法皇宸像

龜山法皇宸翰和衣

鳴滝間  
乃母主馬  
古法眼

後醍醐天皇宸翰

高御室之額

後醍醐院宸翰

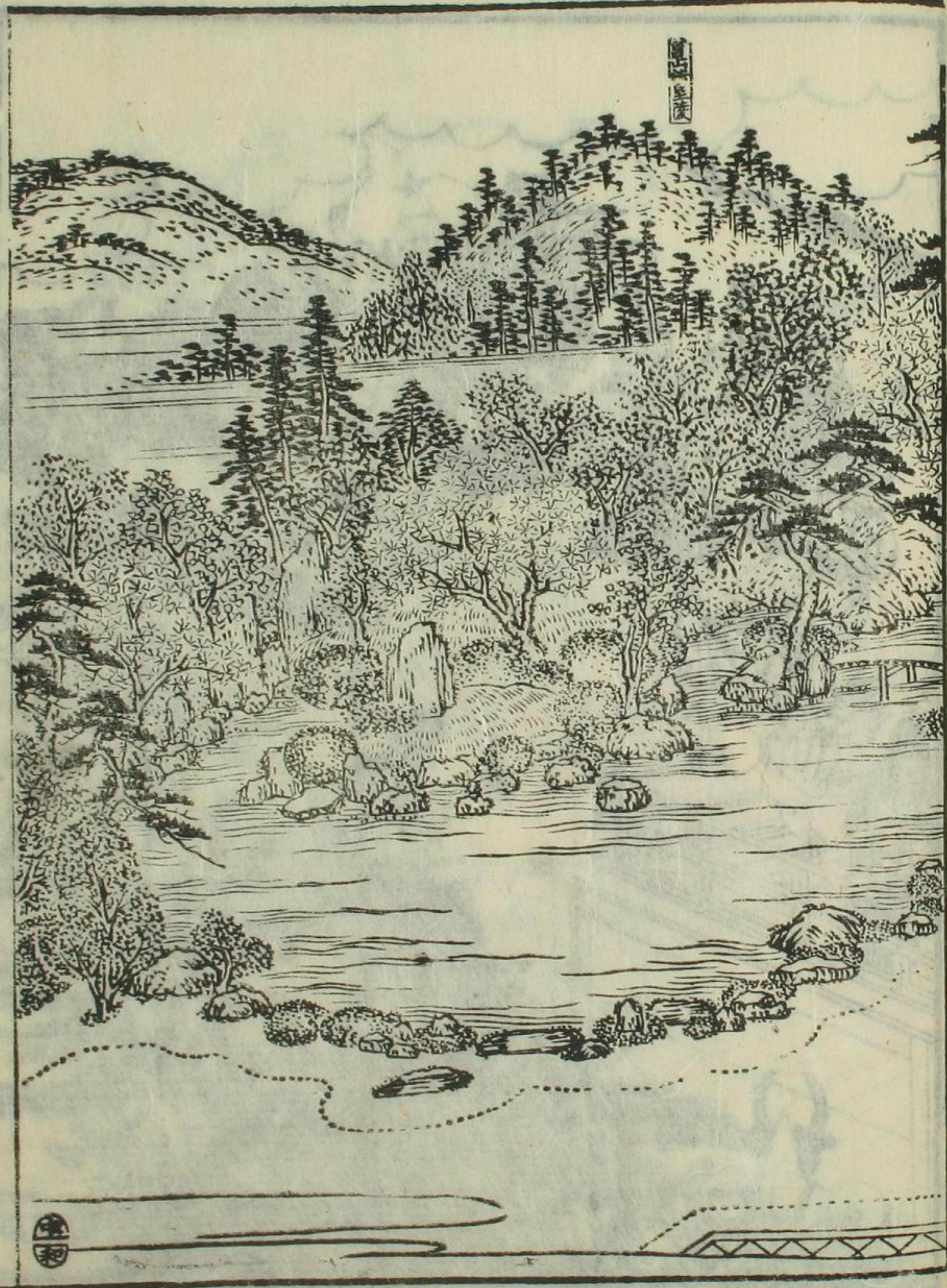




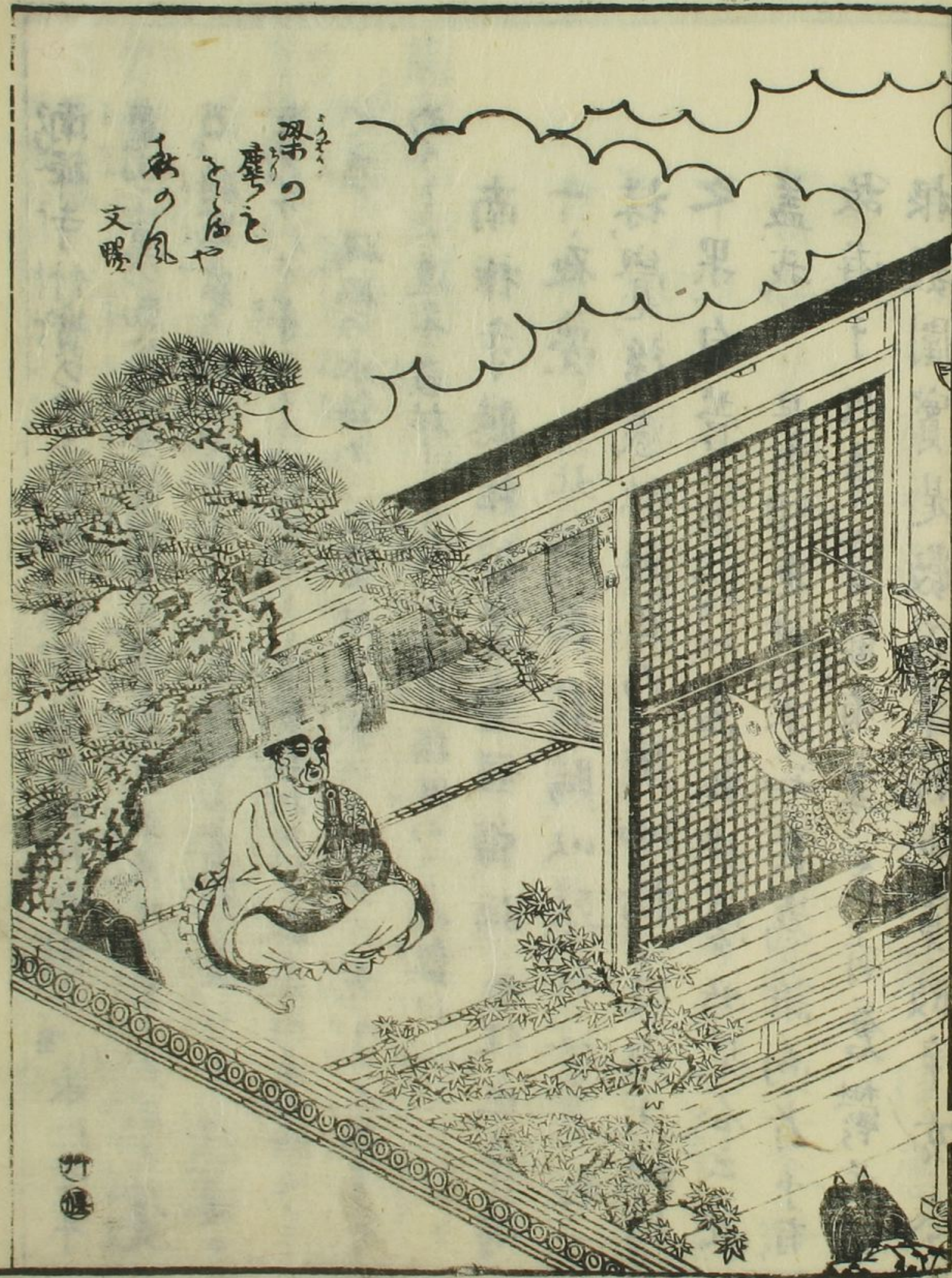














南禪寺什寶の中菅神の鏡銘 三幅 烏樞沙摩明王 一幅 永仁七年  
龜山上皇の勅書正安以隊綸旨國宣院宣建武中官符足利家古卷文  
及將軍家の施捨文等あり其外塔頭古書軸と藏り奉り百通  
ありハクハを奉り小深限なり。塔頭聽松院の林泉風趣幽雅あり  
て庭小礪礪の水鉢あり又菅神羨想の名松あり老木の之樹ありて  
ありしら迄奉表枯く朽く故小植継あり其銘曰

南禪寺聽松院者惠鑑禪師所住也曾傳  
一夜夢 北野神君賜以殊所珍賞松一  
株覺後感銘無己乃早洒掃庭内土地待  
之果自菅家贈一盆松與夢所見合云此  
盖我 曩祖也然不知其為誰向者予有  
故遊于此寺賞觀有年矣青倉鬱茂株  
根數圍實是數百年物也寬政辛亥今

住持正巖禪師乞予詩之回賦一律應其  
需  
青松百尺接天開曾入高僧夢裏來  
林下誰知奉神託庭前偏好挺凡材  
計年風外潮音起仰德雲間龍影回  
元自奇句在人口千秋併賞賦中梅

特進 菅原胤長

藤在衡公別業蹟

神樂岡の北ふあり拾芥抄小足えり藤山莊御の宅址も  
著聞集に記し菅三品の家文ハ本朝文禪に著し惟宗 孝言ハ  
詩小曰 勝地佳名何所感栗田別業在城東 無題詩出  
菩提樹院址 神樂里の東ふあり地名松樞本といふ百練抄云長曆元年  
六月二日上東門院菩提樹院と感聲しり

寶莊嚴院址 聖護院村ふあり長嘉元年十月香羽上皇勅し建立しり  
拾芥抄小足沙系安三年二月十九日空莊嚴院と和歌尚齒會  
あり藤原敦頼とりのく上賓と藤原法輝とりのく盟主とや  
百練抄に足えり

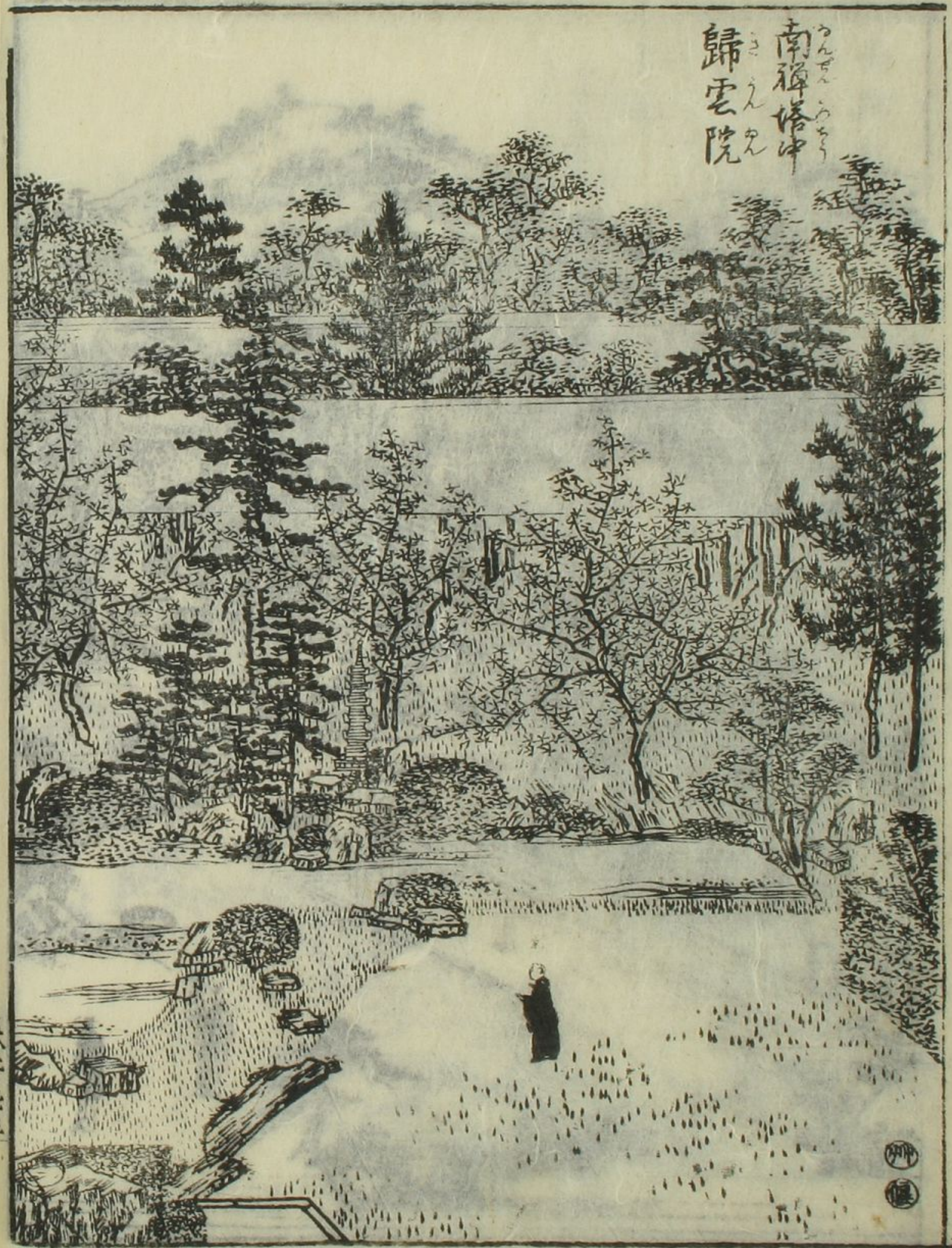
周防内侍





南禅塔中  
聽松院  
林泉相阿弥作  
菅神  
長石  
金髮松





















名物

南禅寺お

湯菘商店

湯豆腐小

お秀吉の

言屋外

清山

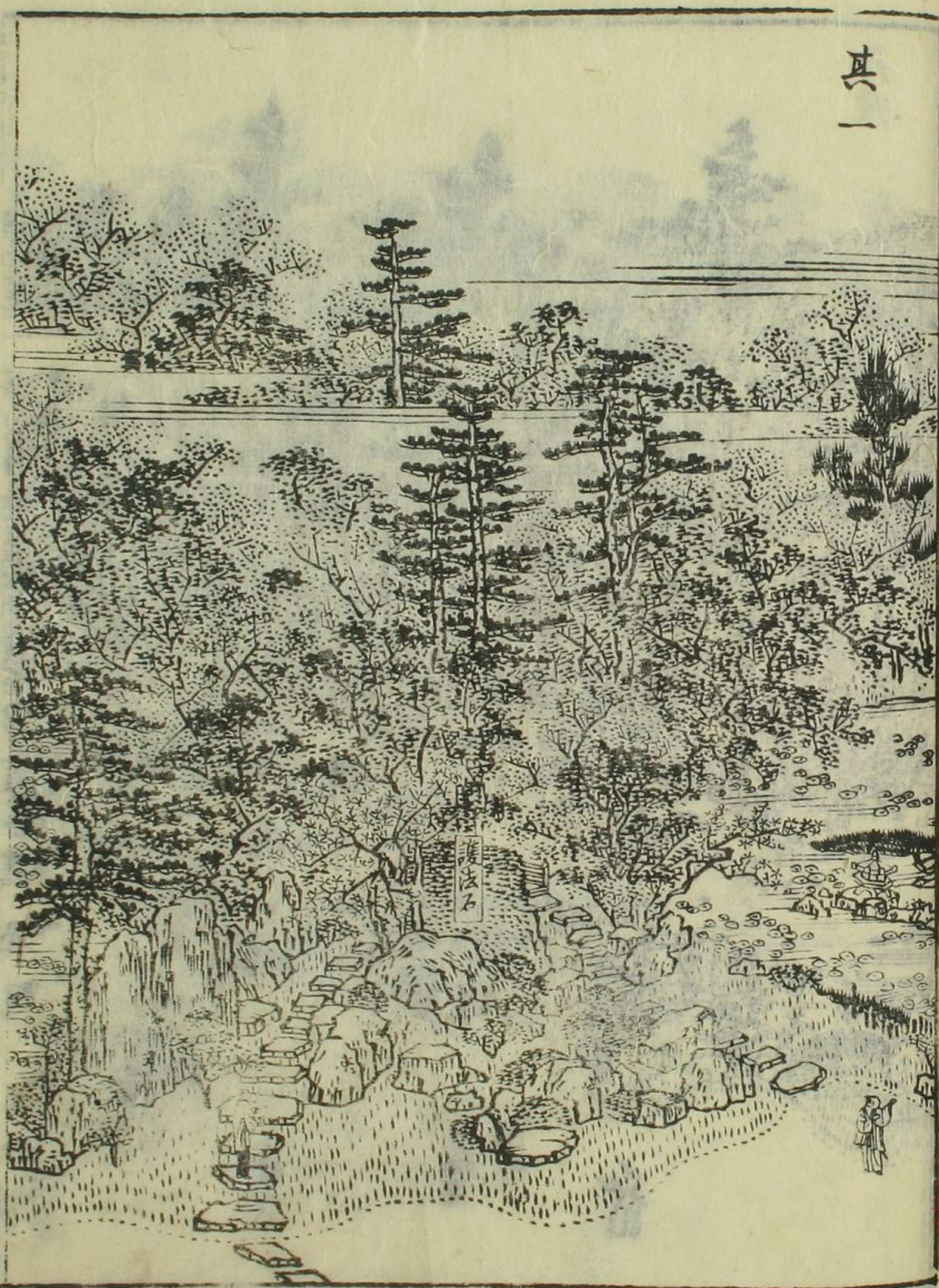


五又  
あまた  
何れ  
おの  
おの

新巻



其一

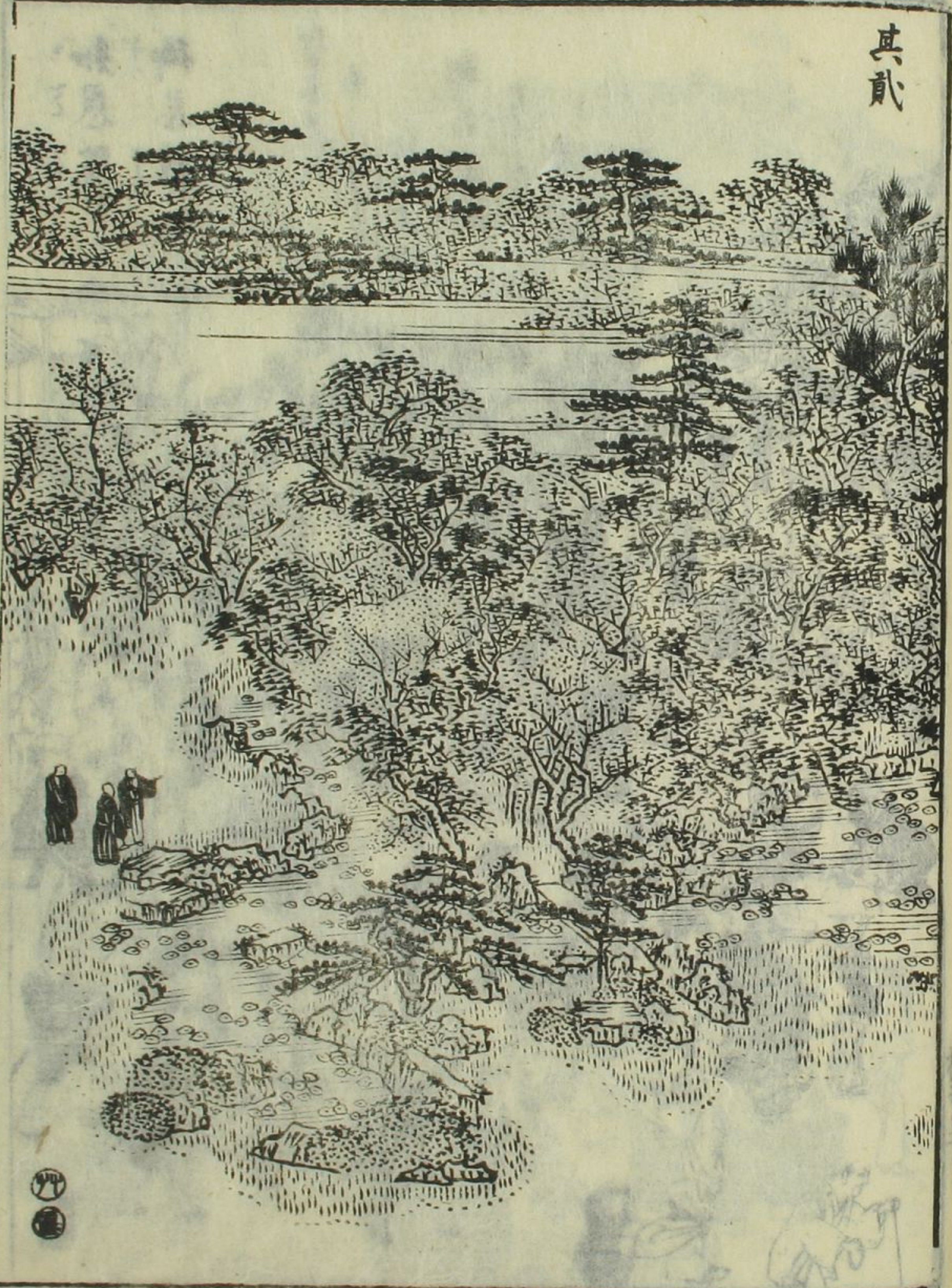


知恩教院  
方丈  
林泉

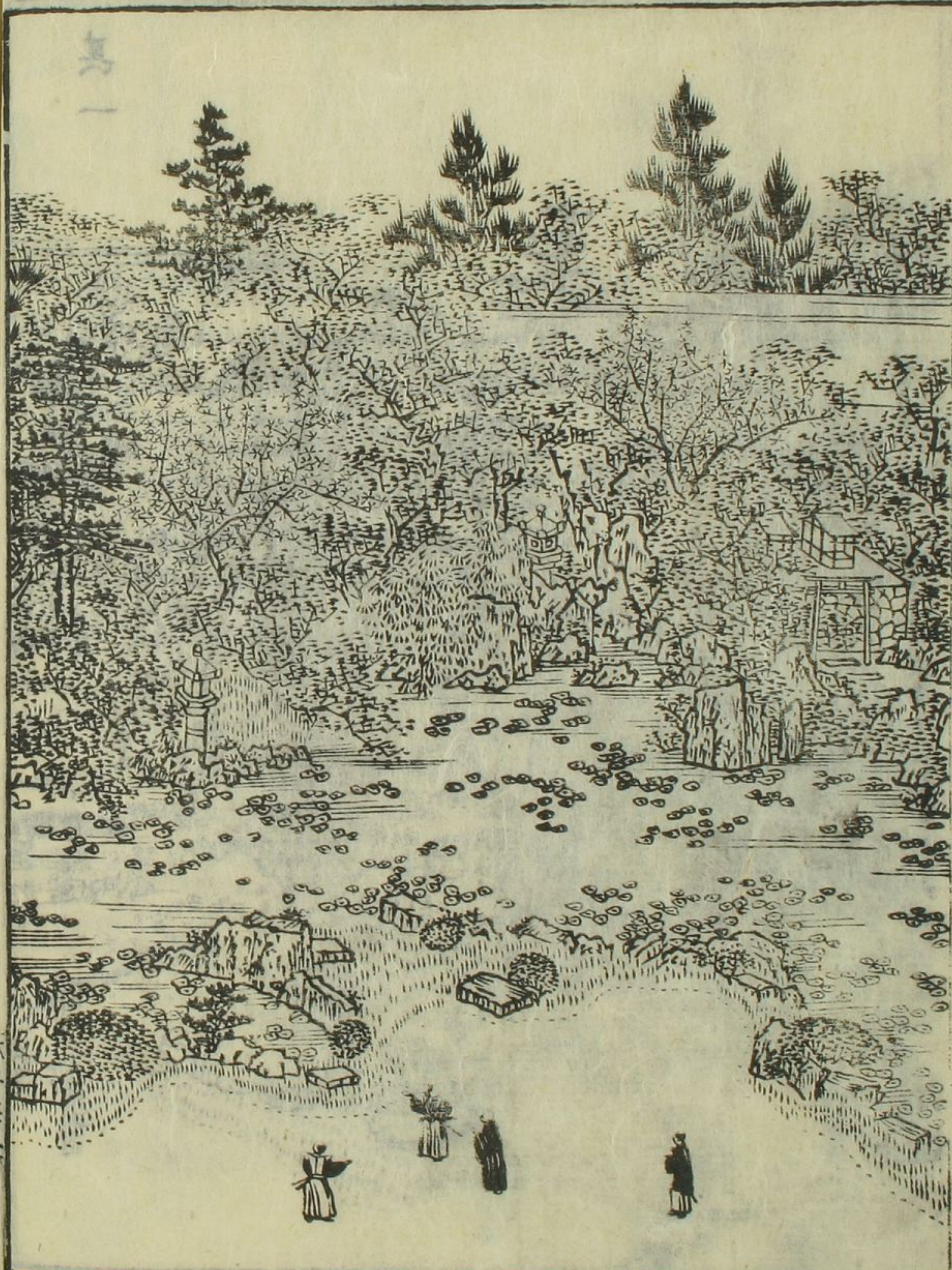




其貳



其一









陽成院陵 文曆三年九月太上天皇崩ト中人神樂師の東に葬トす

冷泉院陵 神樂園の南にあり今詳るるに寛弘八年十月櫻平の

後一條院陵 長元九年九月十九日神樂園の東南に葬トす

粟田院 粟田の北に圓覺寺ト云 法和天皇の離宮なり二代實

遷宮ト云云元慶五年三月十二日勅トす 粟田院

ハ原是太政大臣藤原朝長の子ト云 粟田院

道場ト云云類ト云圓覺寺ト云 延喜式云圓覺寺

太上天皇圓覺寺ト云 延喜式云圓覺寺

無題詩云 今來圓覺勝形境 菅原在良

青蓮院 粟田の北にあり今詳るるに寛弘八年十月櫻平の

應仁記ト云云 粟田院あり

知恩教院 大谷寺ト云 正久寺常在院白毫

依境ト云云 志々々ト云ト人のむねのむす

かたそ女や糸とまき 侍忌詣

侍忌の袴 袴とくや谷の水すく

侍忌のかけ 袴も鞍馬もま等小

松の侍耳ふさく 侍忌の袴

町中た 櫻分入ふや 知恩院

圓山 安養寺ト云 吉水ト云 法隆寺ト云

又端の佳境ト云 長善寺ト云 阿弥

信長の子あり 阿弥ト云 延喜式云

道八賢ト云 阿弥ト云 延喜式云

多麻房の庭 阿弥の他多麻房の書院の画ハ

境地に古水の名あり 阿弥の他多麻房の書院の画ハ

今朝出日ハ川 帰舟をう山 羅人



- ① 玄居亭
- ② 四大塔
- ③ 宇賀廟
- ④ 春暘池
- ⑤ 七星橋
- ⑥ 彩電橋
- ⑦ 浪影橋
- ⑧ 春眠亭
- ⑨ 天柱峯
- ⑩ 桃源窟



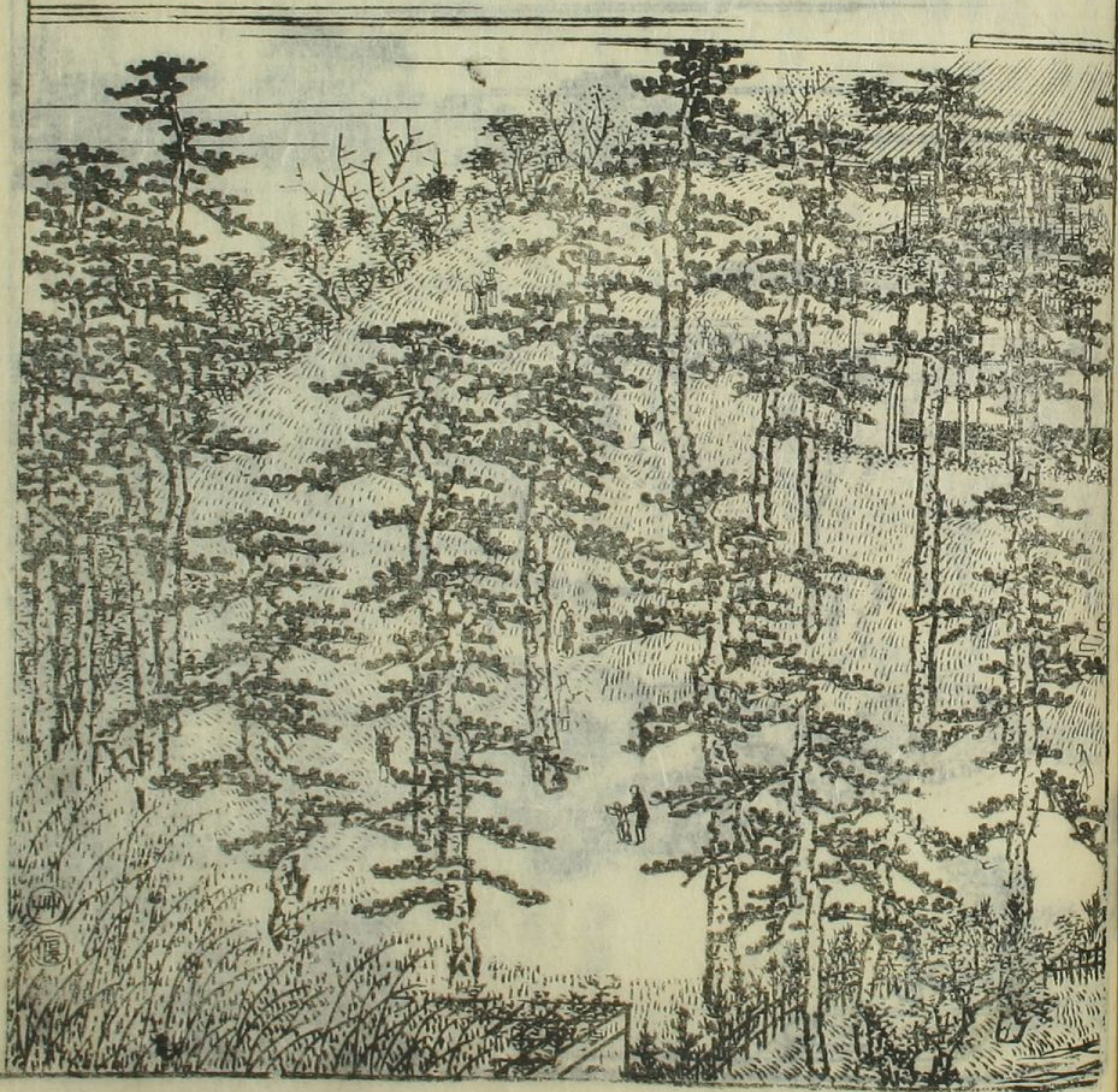
圓山  
多藏  
阿弥  
初八  
眼石  
と  
は





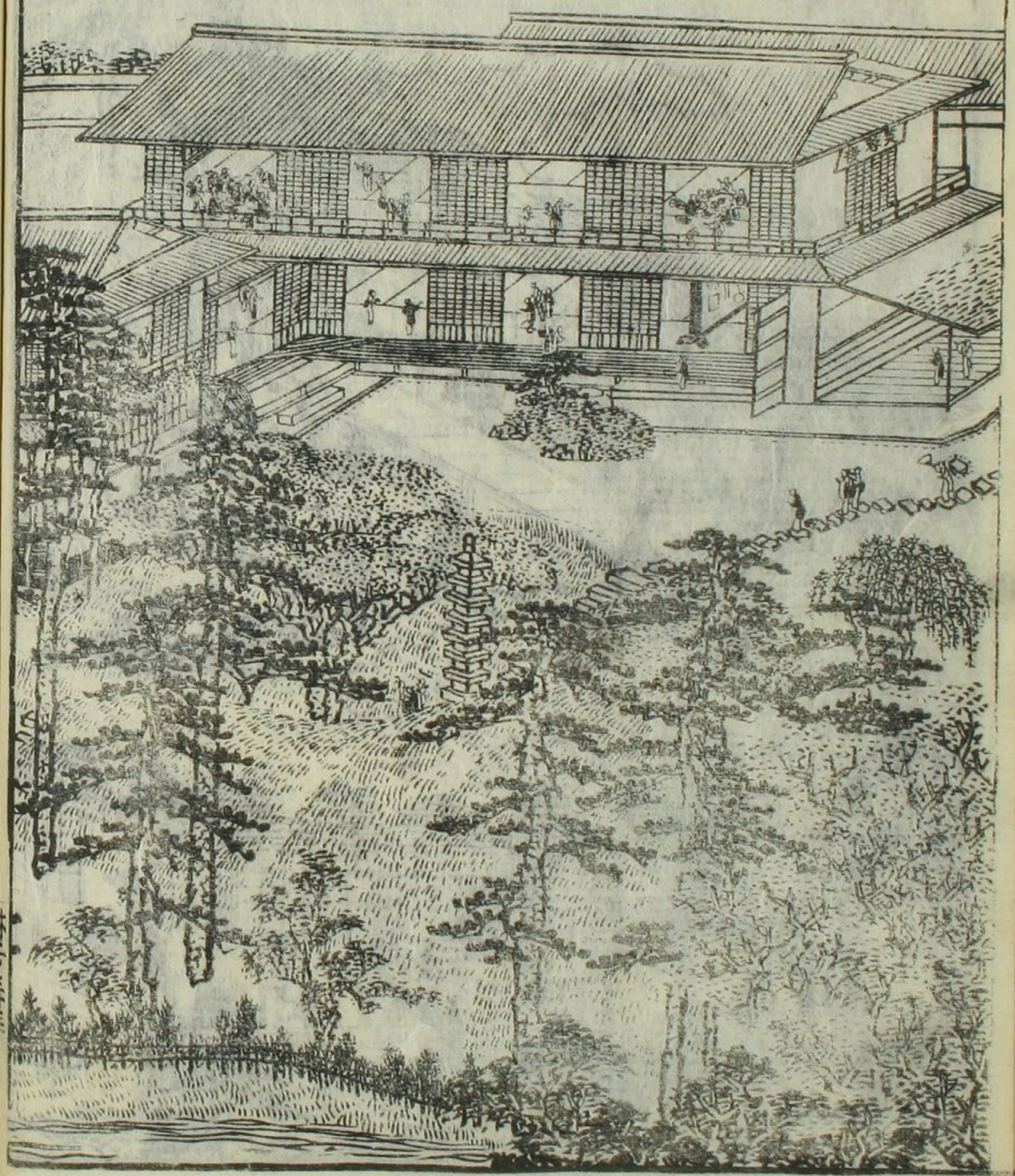
伊勢 長衣の  
 法哉

東京 大久保  
 餘丁町 拾遺地  
 坪内 堆藏



其 一

延壽庵  
 山  
 連阿弥



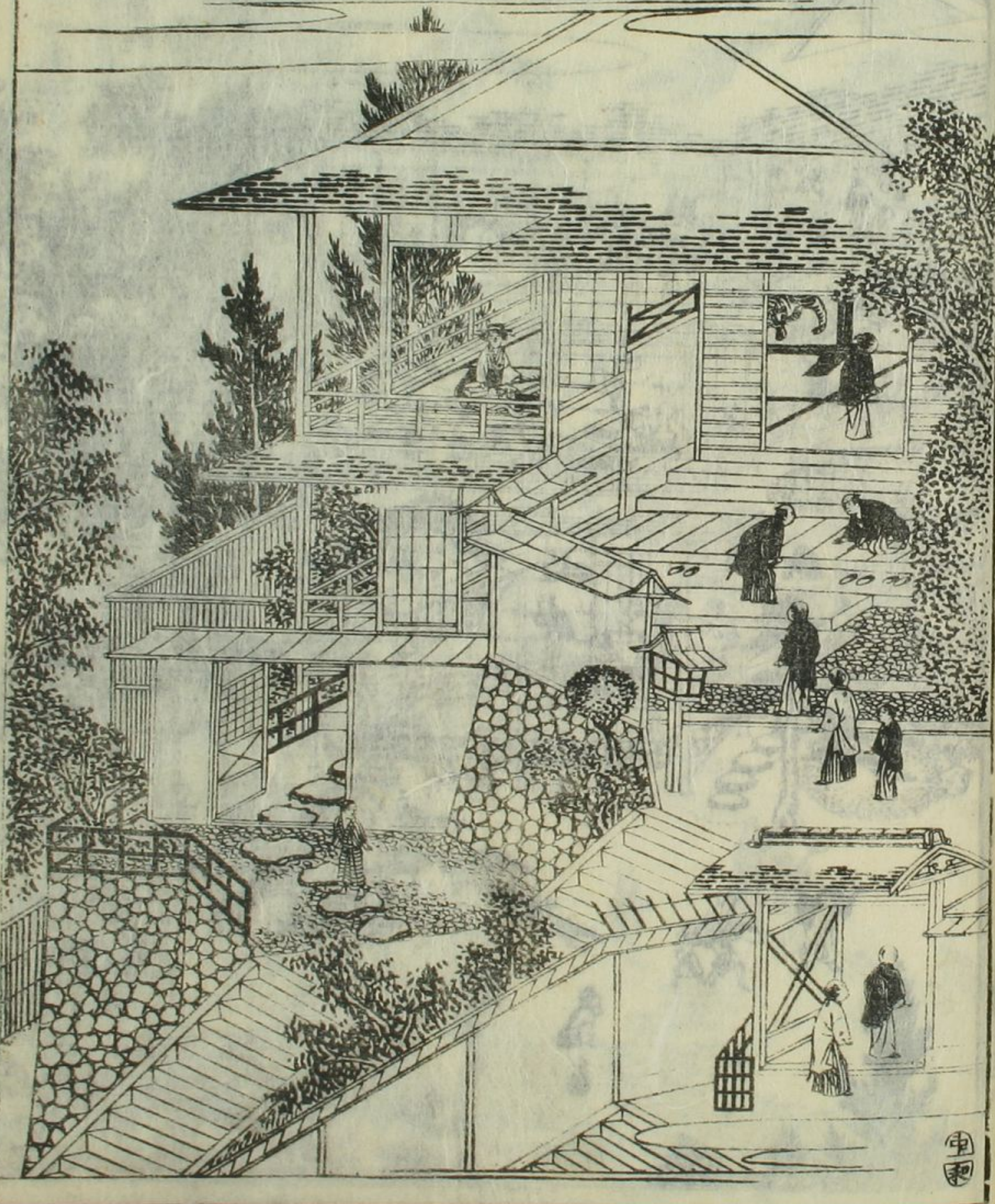






圓山  
端之寮  
玄廊

其居寮  
三層樓外  
花之庵  
燈之室  
堂之三  
正風城中  
及之藏  
風之樓  
夕陽西  
半居  
圓山寮



無漏界之右于以俗機可斷于以業塵可  
 消故吾黨占斗藪兮攀登擊合掌兮禮拜  
 而巳矣于時樹間葉落山中路幽晚霞影  
 輕漫埋出峽之猿叫曉雨聲冷暗洗在林  
 之鹿鳴度澗口以續紛拂岩腹以蕭颯至  
 彼錦窠脆而辭蜀機丹丸碎而謝仙竈  
 蕪往反杖穿朱買臣之衣隱逸優遊履  
 葛雅仙之藥遂使結烟之苔鬢半變其青  
 噴雪之泉脉漸欠其白者也既而世外地  
 上天中樹前錫振九條寒嵐傳而響遠鐘  
 撞三下夜霜和而韻高如予者藥生難秀  
 雖守槐林之株花報猶芳始到蓮宮之砌  
 請任禪定將離愚癡云爾

茲示其園院  
 雙林之內有坊曰拾芥坊云左大使泥張定盤の遠建  
 備房六區あり寺山永正十年の縁起文に延年中の若勝  
 の齋蹟あり平寂談及の茶菴集に足ゆる又平塘頼入道の山莊  
 崑玉集に出入り近年双田頓阿の古蹟茶華園院とあり居小  
 遷り先至徳年沖圓阿上人名地の  
 荒廢成悼と再興に及ぶ





東山  
帝上  
顯圓  
德譽  
山  
迴抱  
帝州  
欄前萬景  
在毫頭丹  
青天下無  
雙千佳麗  
東山第  
一樓

右  
指言瑞泉也  
永田親爲曾  
本書此立宇庵于其樓  
六如庵慈周



端之寮  
度阿弥他  
其  
貳







多福山  
 多福菴  
 也河流  
 林泉 有斐能

此山多福菴  
 也河流  
 林泉 有斐能



其一

春日同新寄鶴祝言  
 赤身たるは多福山  
 多福山は赤身たるは  
 多福山は赤身たるは  
 多福山は赤身たるは  
 正三位賢枝卿





多福菴

有坐他

其貳



題芳水多福菴

門前芳水澹

巖崖流繞開

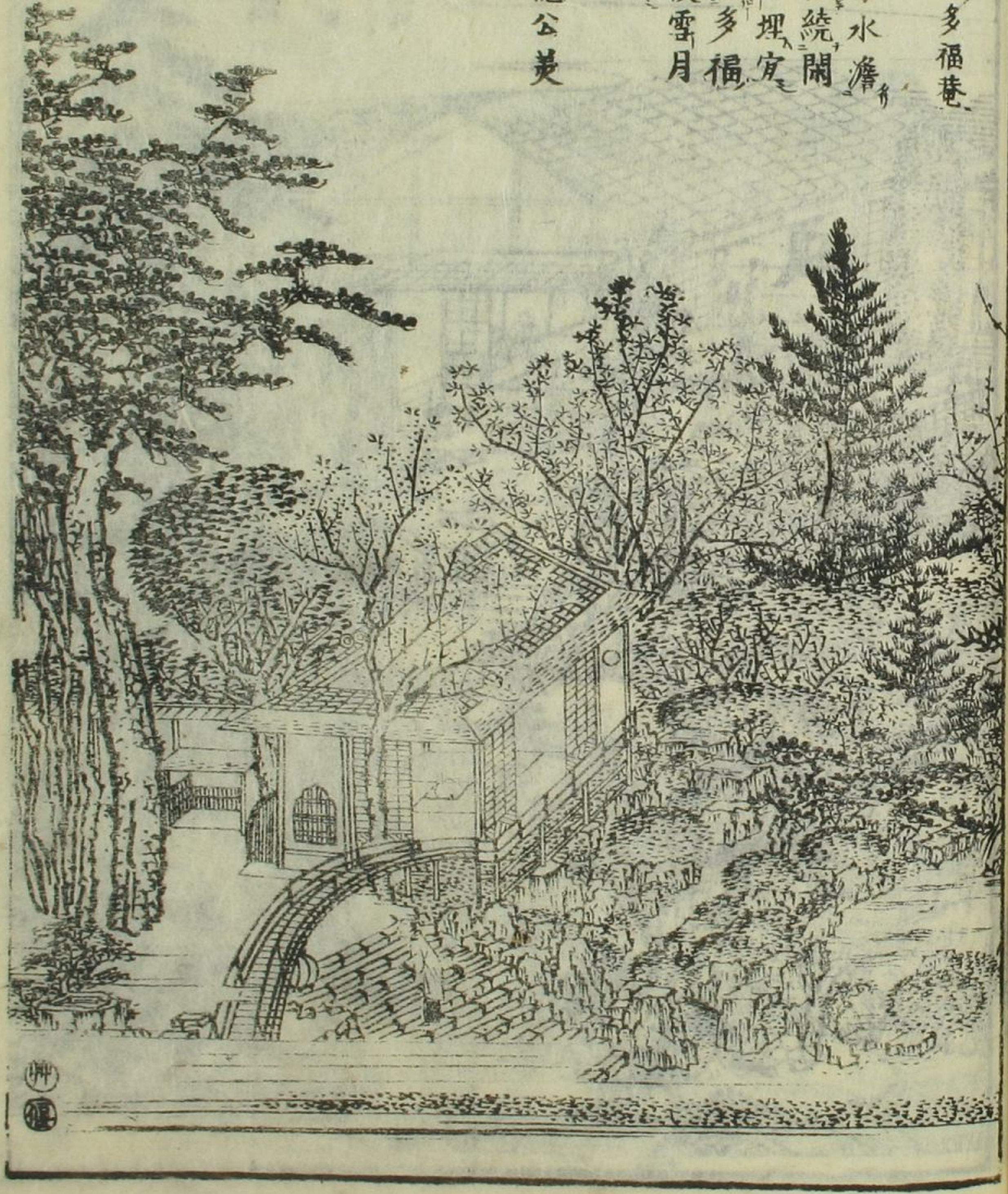
庭苔自理宜

矣菴題多福

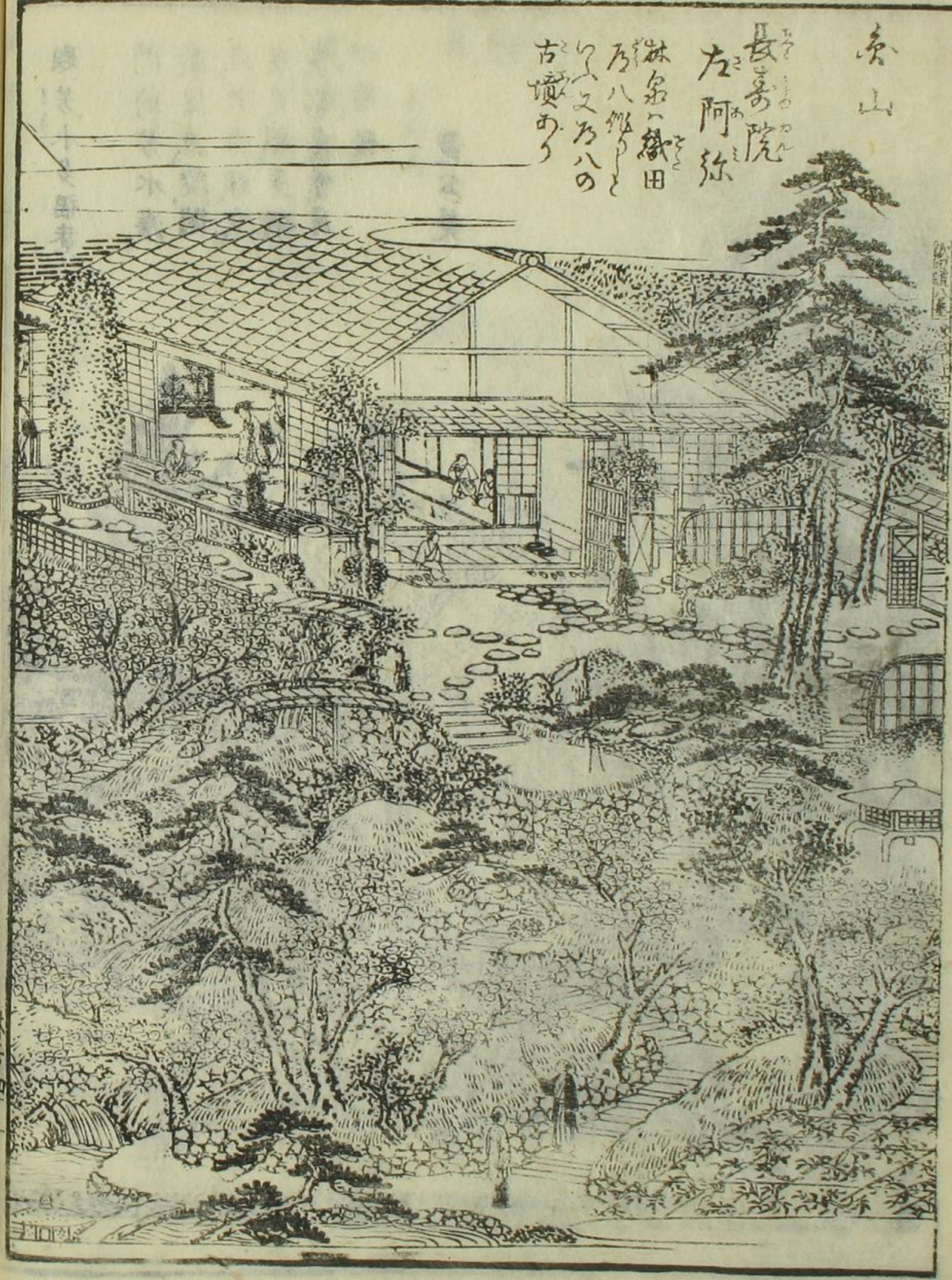
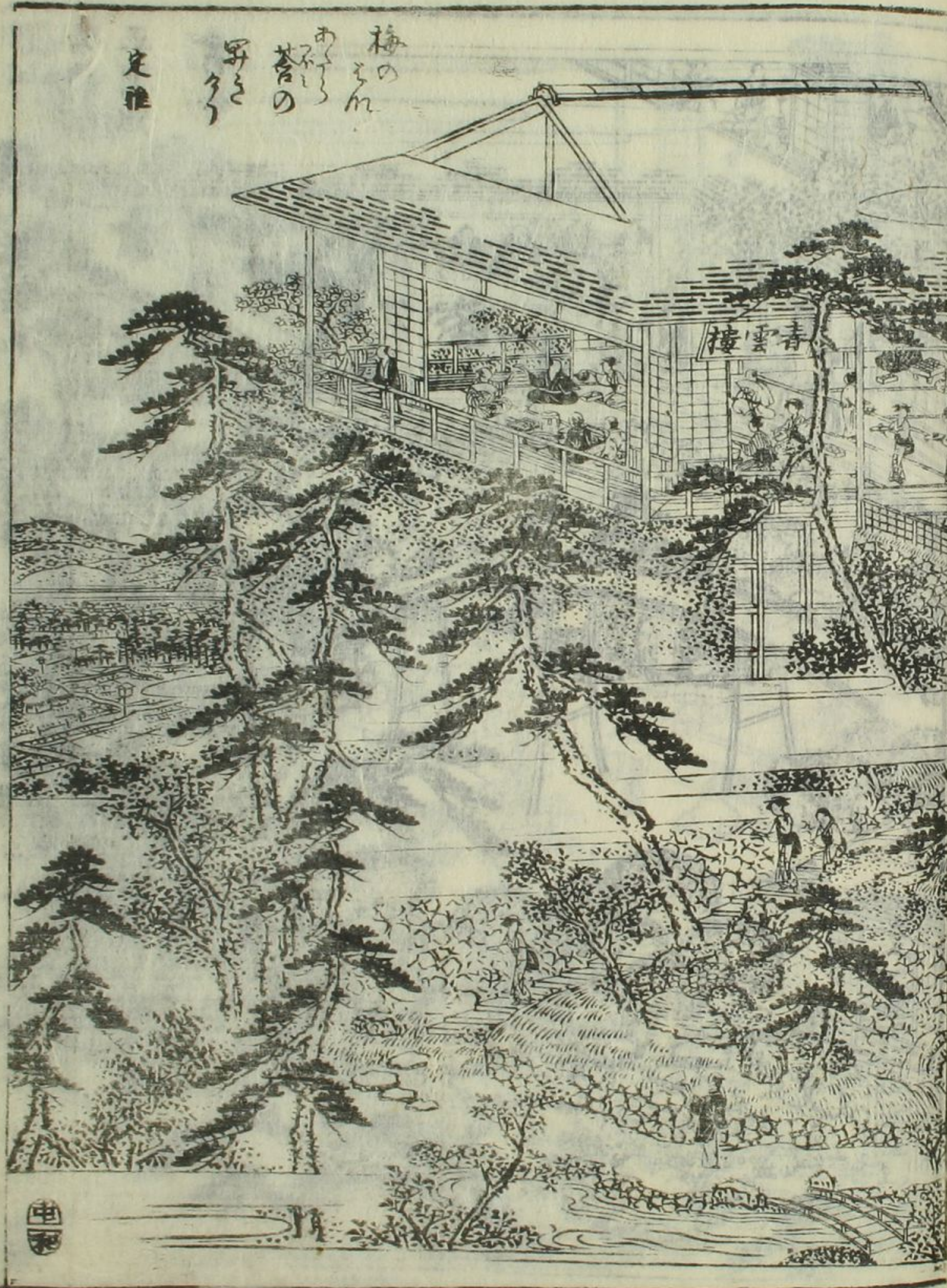
字烟霞雪月

四時佳

龍公美









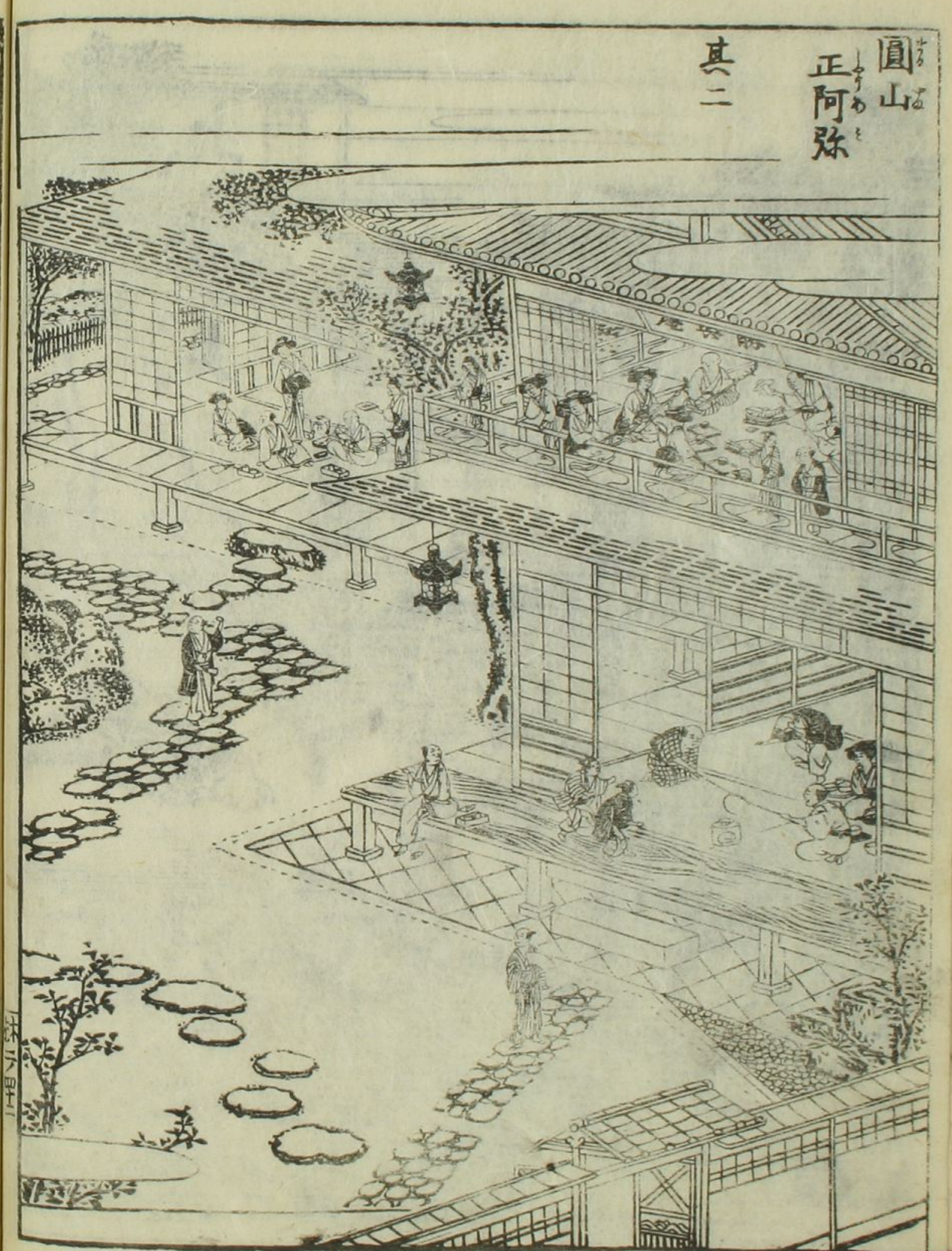


圓山  
勝興  
正阿弥  
書會





我が  
 子の  
 庭や  
 青の  
 斜  
 正  
 志  
 談



圓山  
 正阿弥  
 其二

正阿弥





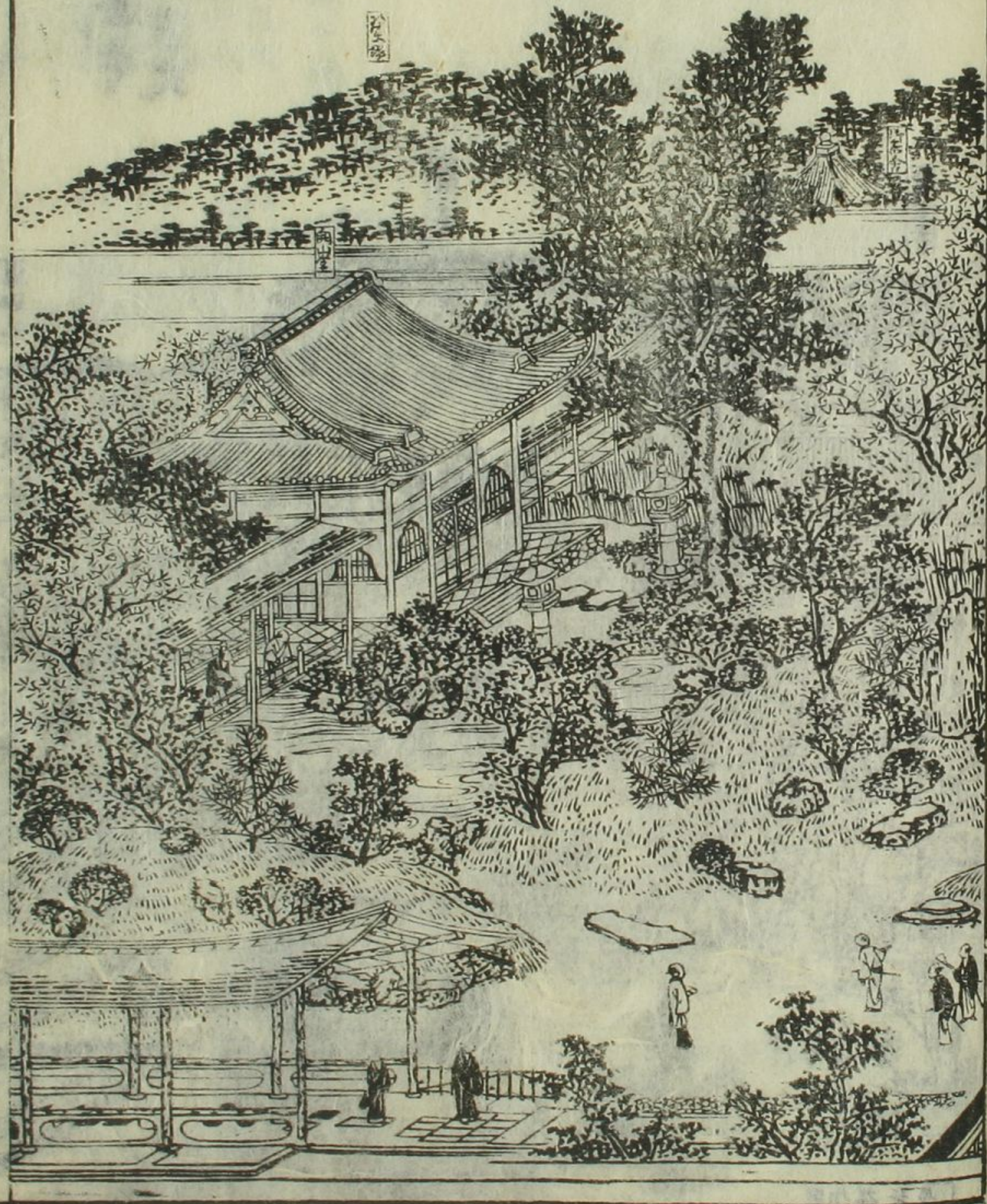




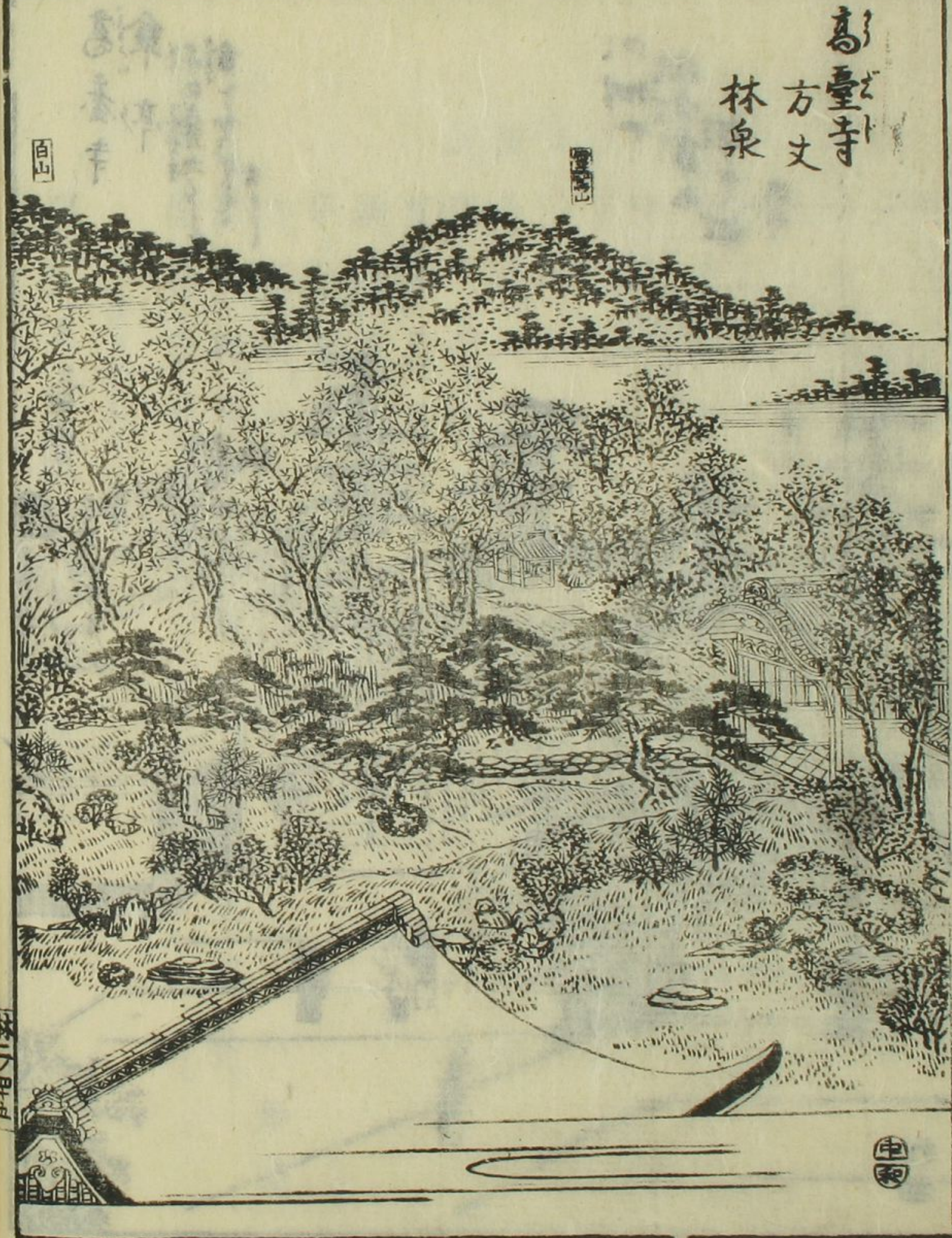
秋過高臺寺見芳宜花  
 高臺人靜梵王家鳥雀群飛樹外霞  
 龍公美  
 日暮放參鐘絕後秋風摧紫鹿鳴花  
 九日環中禪師邀蕉中和尚及余  
 遊高臺寺上方余有故不得陪從  
 後讀其唱和詩有感因賦呈二師  
 寬政己酉春罹災  
 鞠為荒場矣  
 六如菴  
 佳賓佳節興佳哉詩為兼秋更帶哀  
 百六數歸巴噀火金銀寺化漢地灰  
 織亭避雨寒吹帽菊水試茶香滿杯  
 正使空門心不着堪看鹿跡上高臺  
 寬政己酉春高臺寺罹災  
 鞠為荒場矣  
 環中禪師  
 辛勤重構亡幾殆復舊觀  
 功亦偉哉  
 六如菴  
 巨厦支頤幸有人重榮花木挽回春  
 唯除林表孤峰色二百年來事々新  
 六如菴  
 迷ひてそ並らかりしをこぼれ  
 定雅



其一



高臺寺  
方丈  
林泉



中



高臺寺  
小方丈



乙卯重九  
環中上人邀登  
高臺寺山閣  
設宴

蕉中禪師  
白雲西望夕將沈  
綺席留連興轉  
深不擬登高能  
作賦鮮言山水  
有清音

同賦

環中禪師

登高非微俗  
迎賞為林泉  
憑欄幽松際  
暮寒千嶂碧  
雨氣萬家烟  
遠莫歸期晚  
好教初月懸



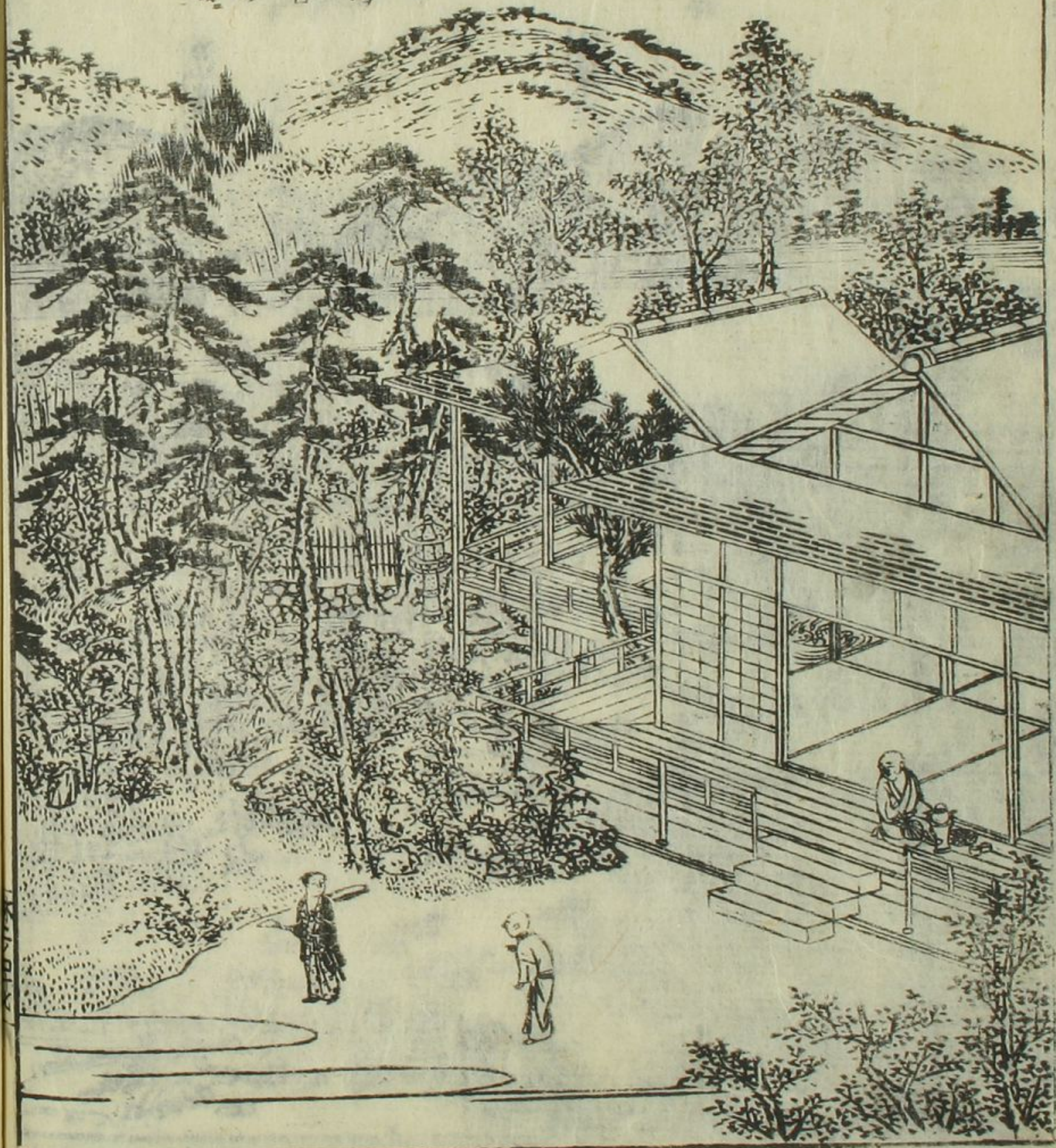


雙林寺  
長壽菴

宿禰華院主  
月峰之住菴

簷前雨細山添綠  
簾外花飛雪散香  
况復主人談論妙  
忘歸終日醉金觴

龍公美



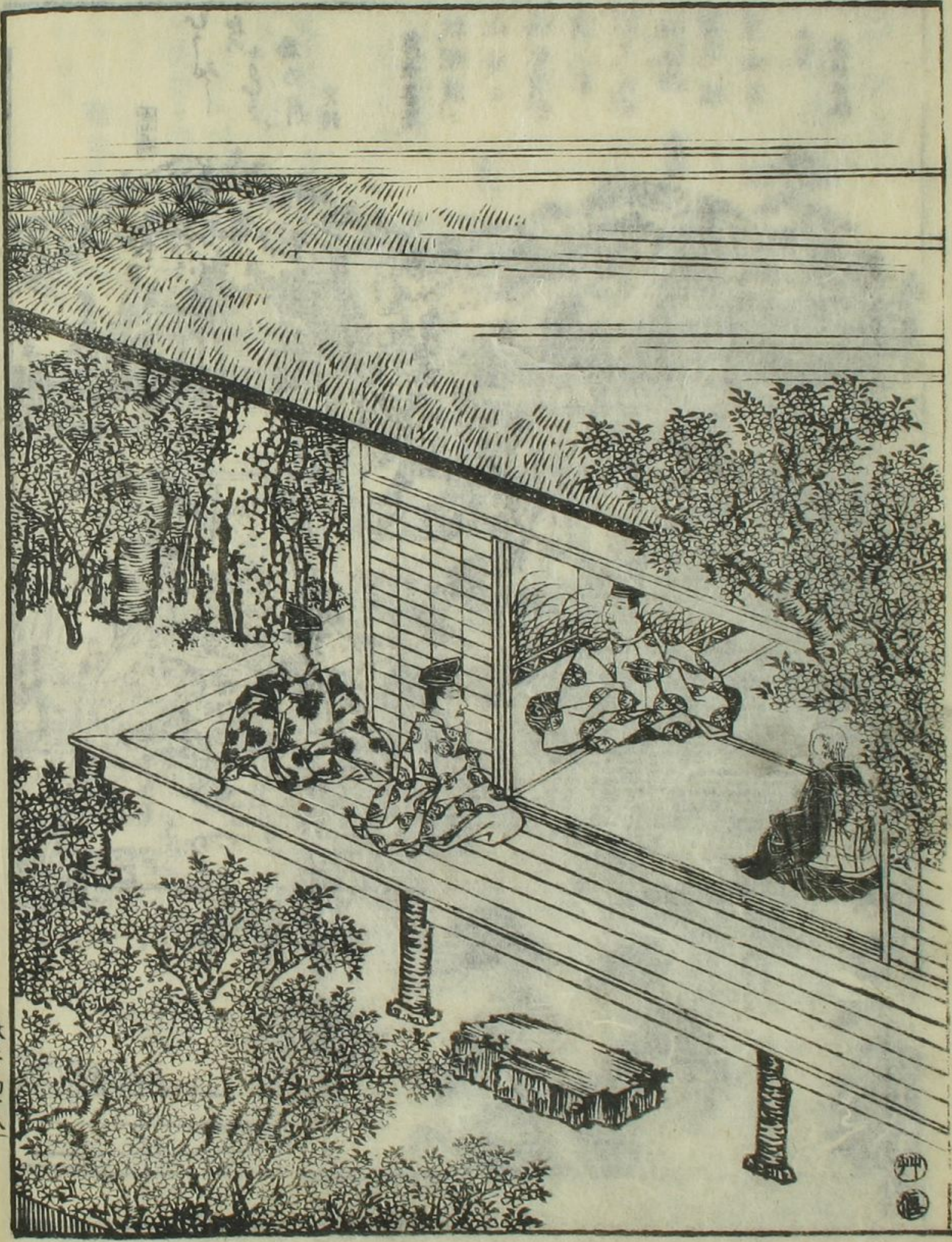
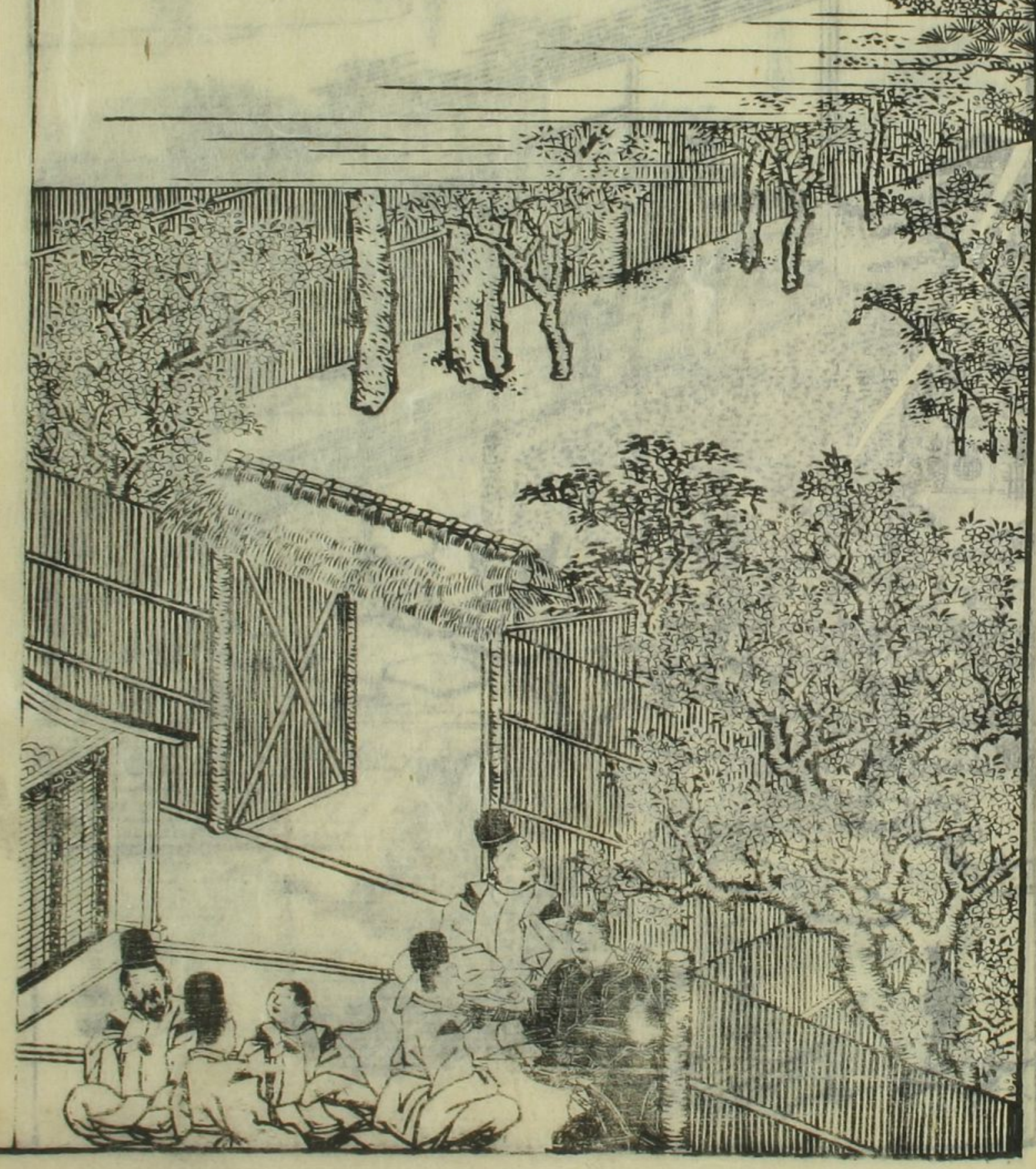
いみみ  
梅の月  
定雅

總長壽庵  
秋烟漠々  
水冷々  
物屯清奇  
溪上亭  
試見天公  
存画癖  
描成一幅  
翠堆屏  
三峯  
荷田信輝





むうし 龍の  
 上人の  
 茶室 園の  
 弥生の花  
 極花多く  
 咲き乱れ  
 空客  
 群あり  
 今双林  
 形そろう  
 踏瓜  
 のとこれ  
 東海  
 園の  
 茶田と  
 あつと  
 ちりちり  
 ちりちり



林之四八

〇  
 〇





花渡山  
將軍殿

將軍殿と  
若の代や  
將軍殿の  
かんとろ  
花渡  
島堂

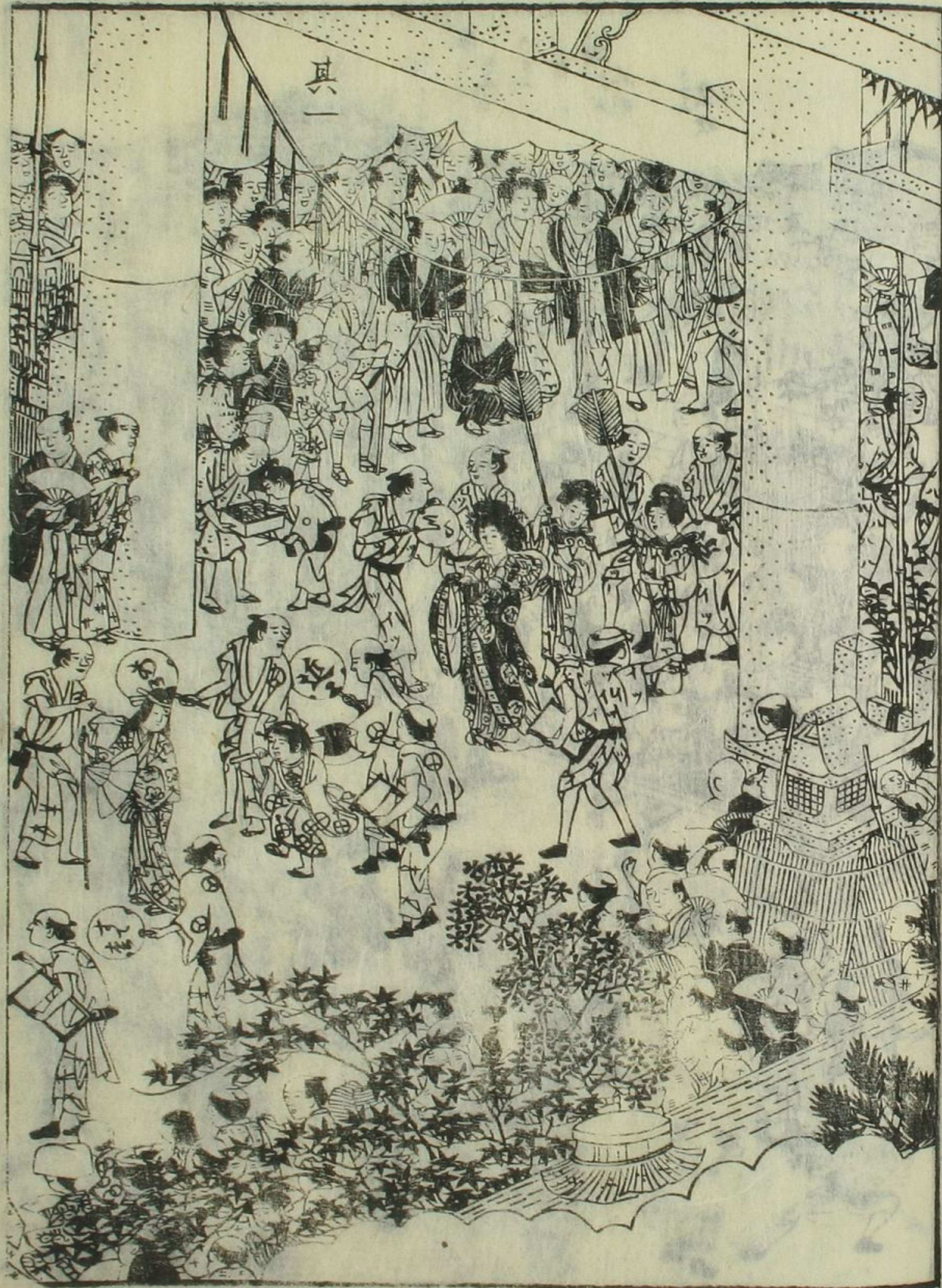
百山嶺



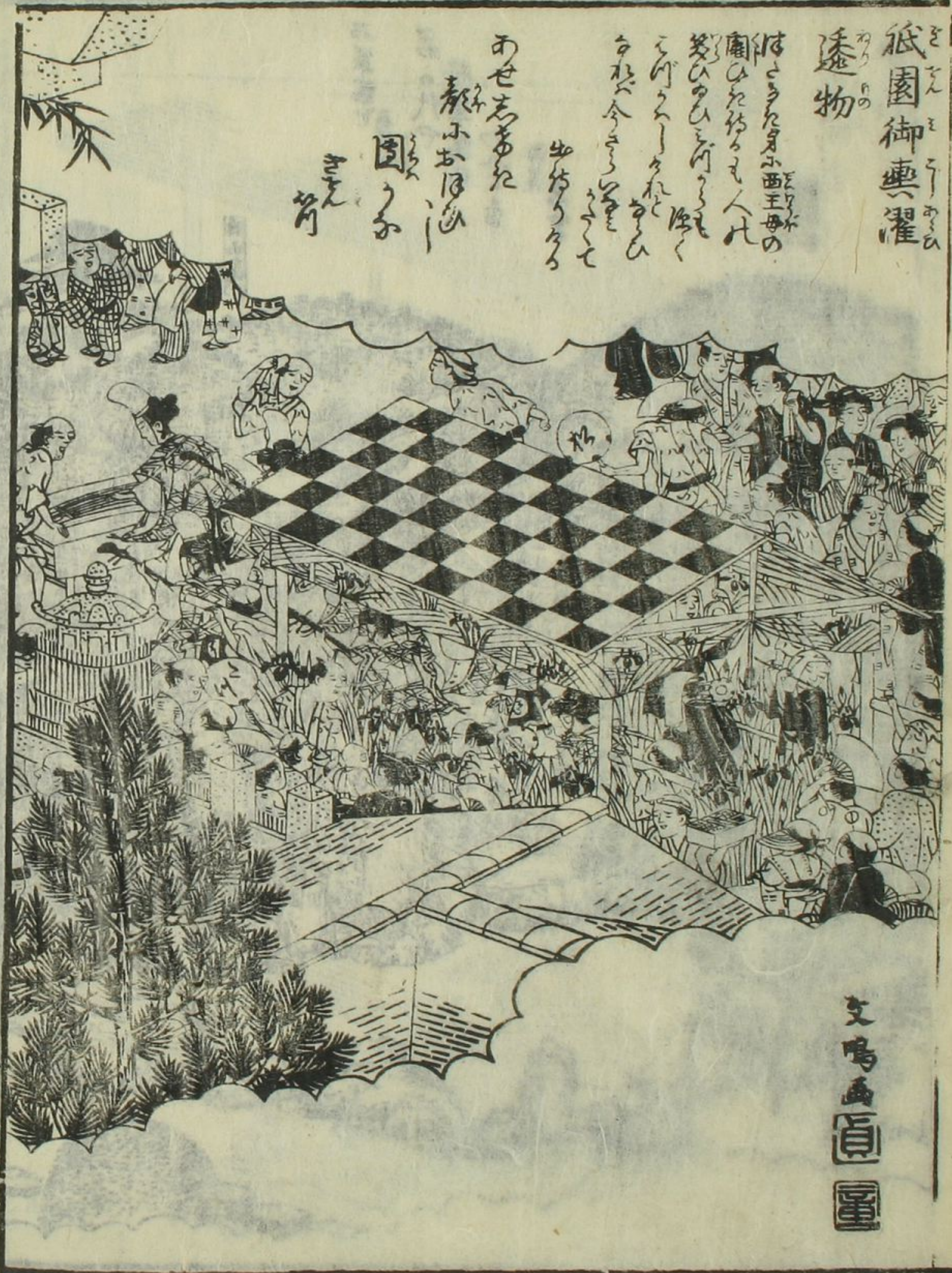
雙林寺  
支阿弥  
林名  
相阿弥池

申和





其  
一



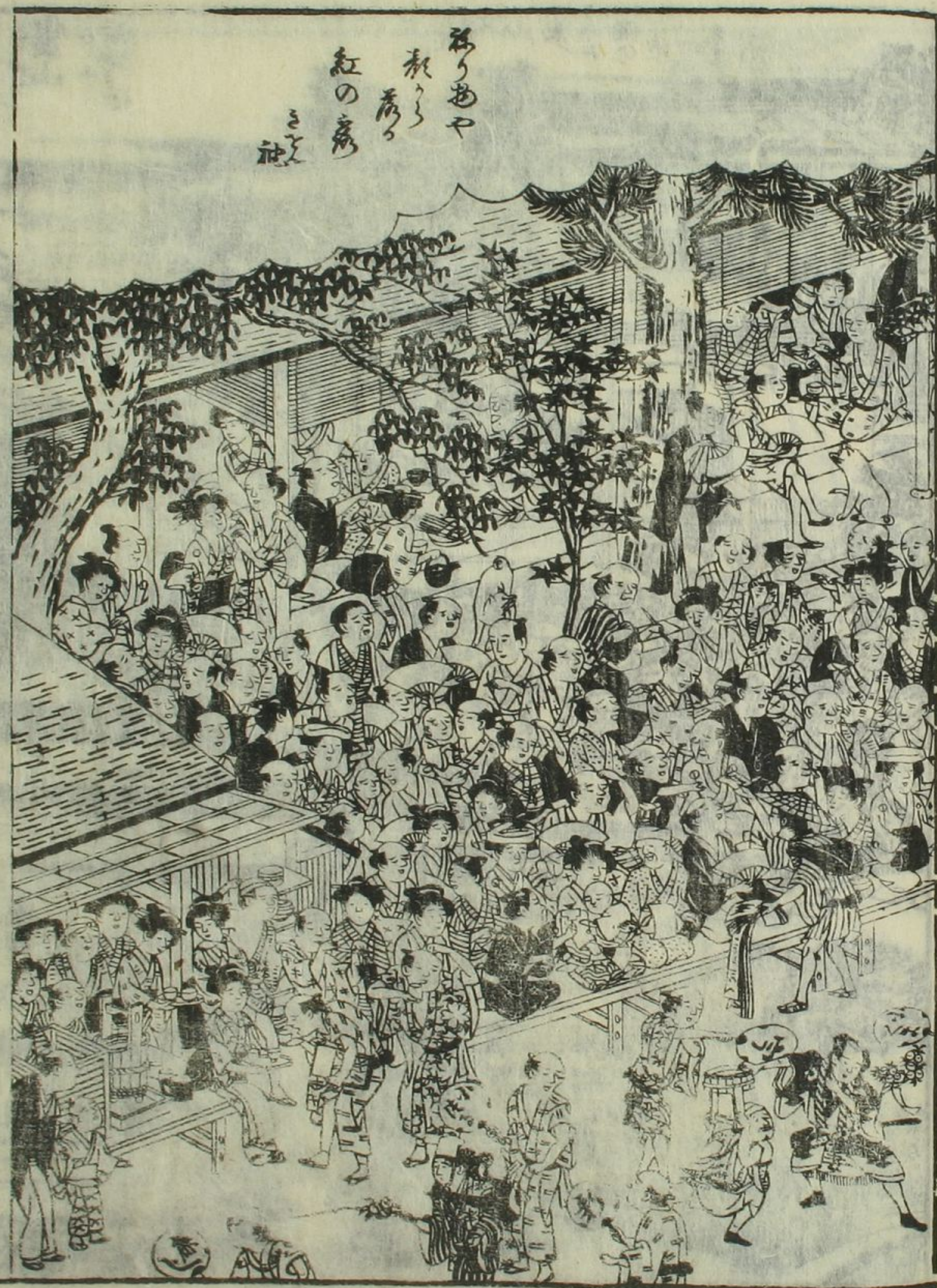
祇園御奠濯  
遠物

附とらた身小西王母の  
廟ひたゆるも人れ  
幾ひひしと何と  
こ何とくしとれと  
ちた今さうと  
物ちうとる  
あせあまた  
教ふおほい  
園うお  
きえ  
宵

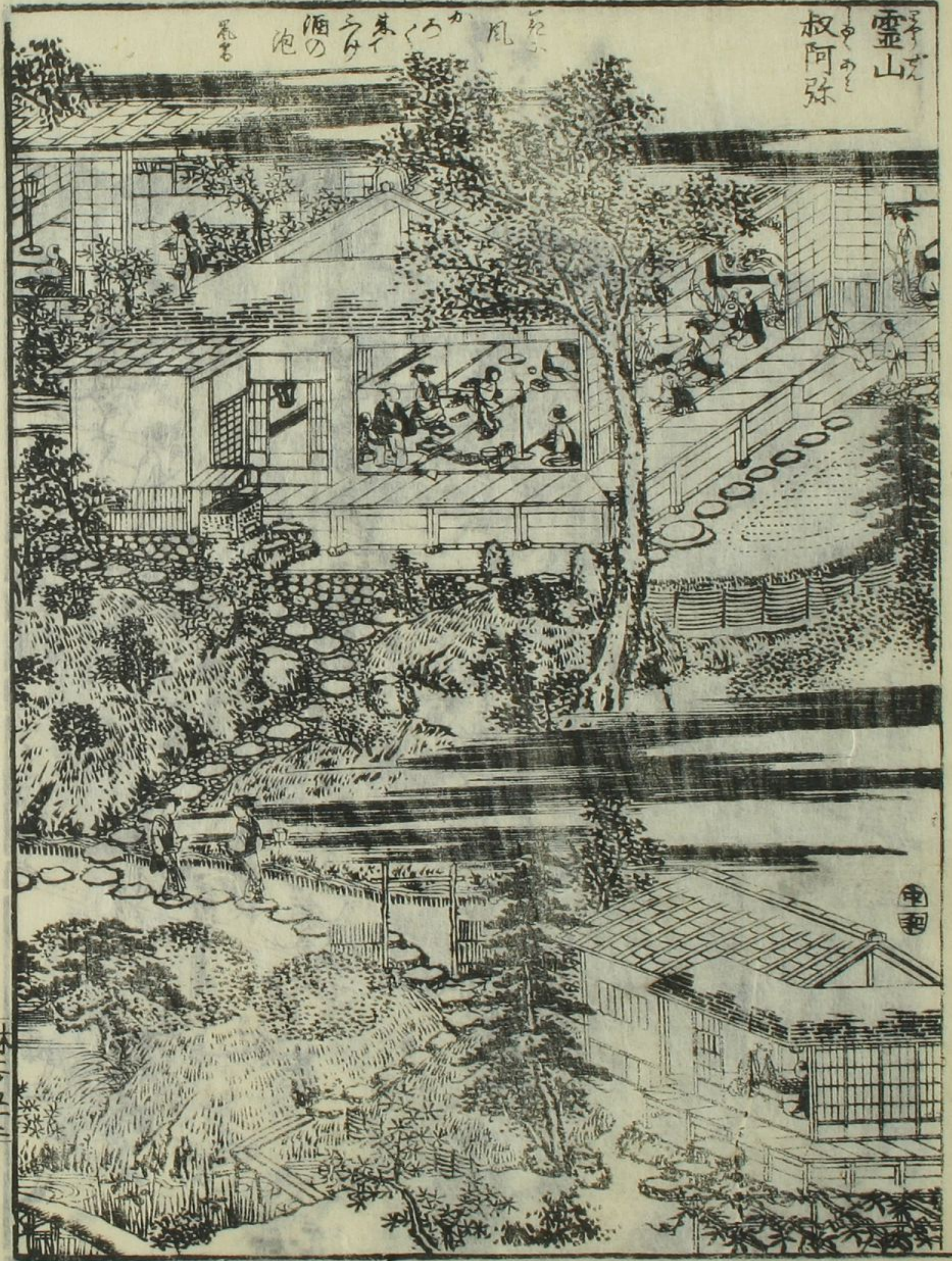
支鳴画頁圖

其  
二



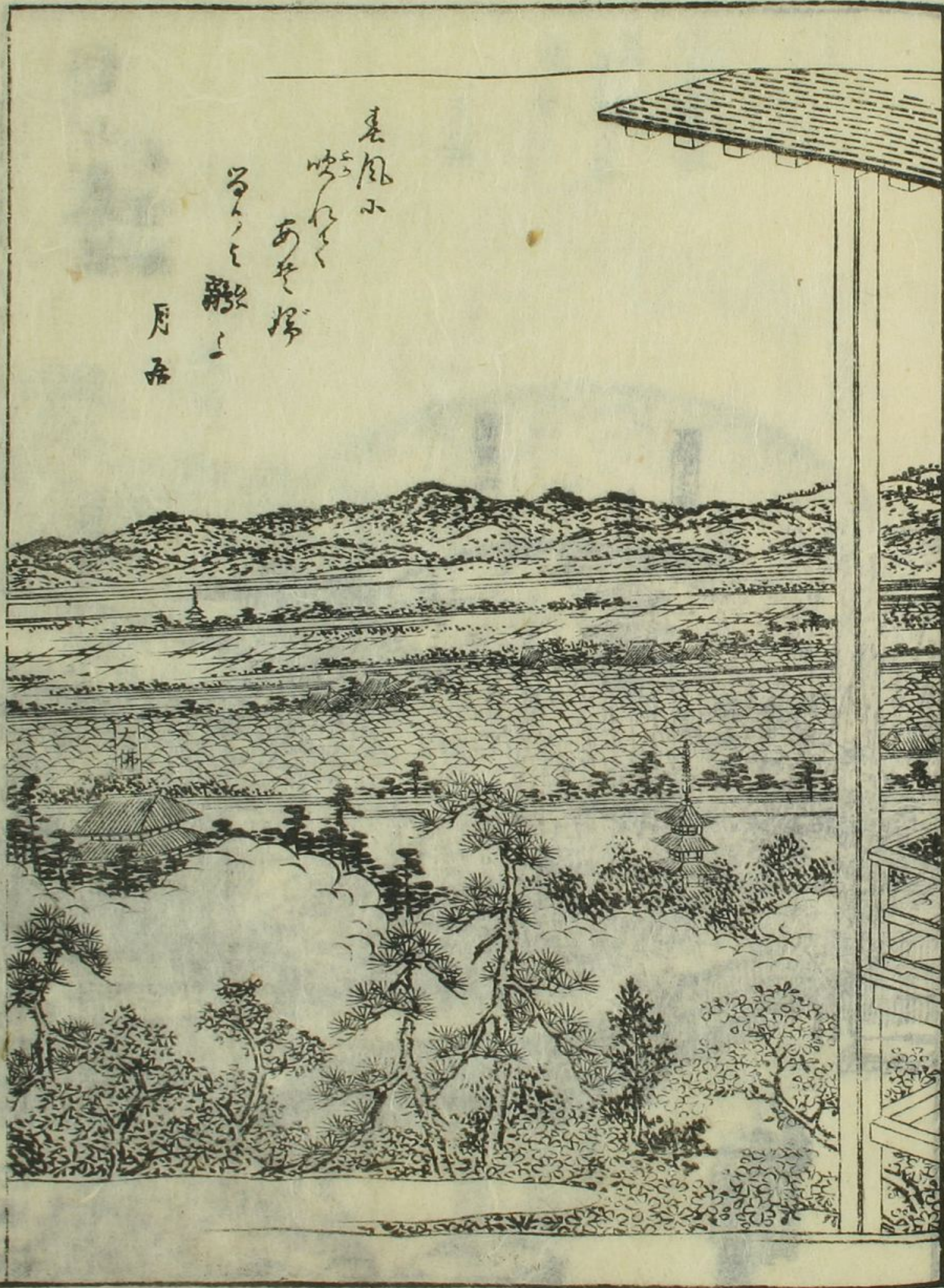




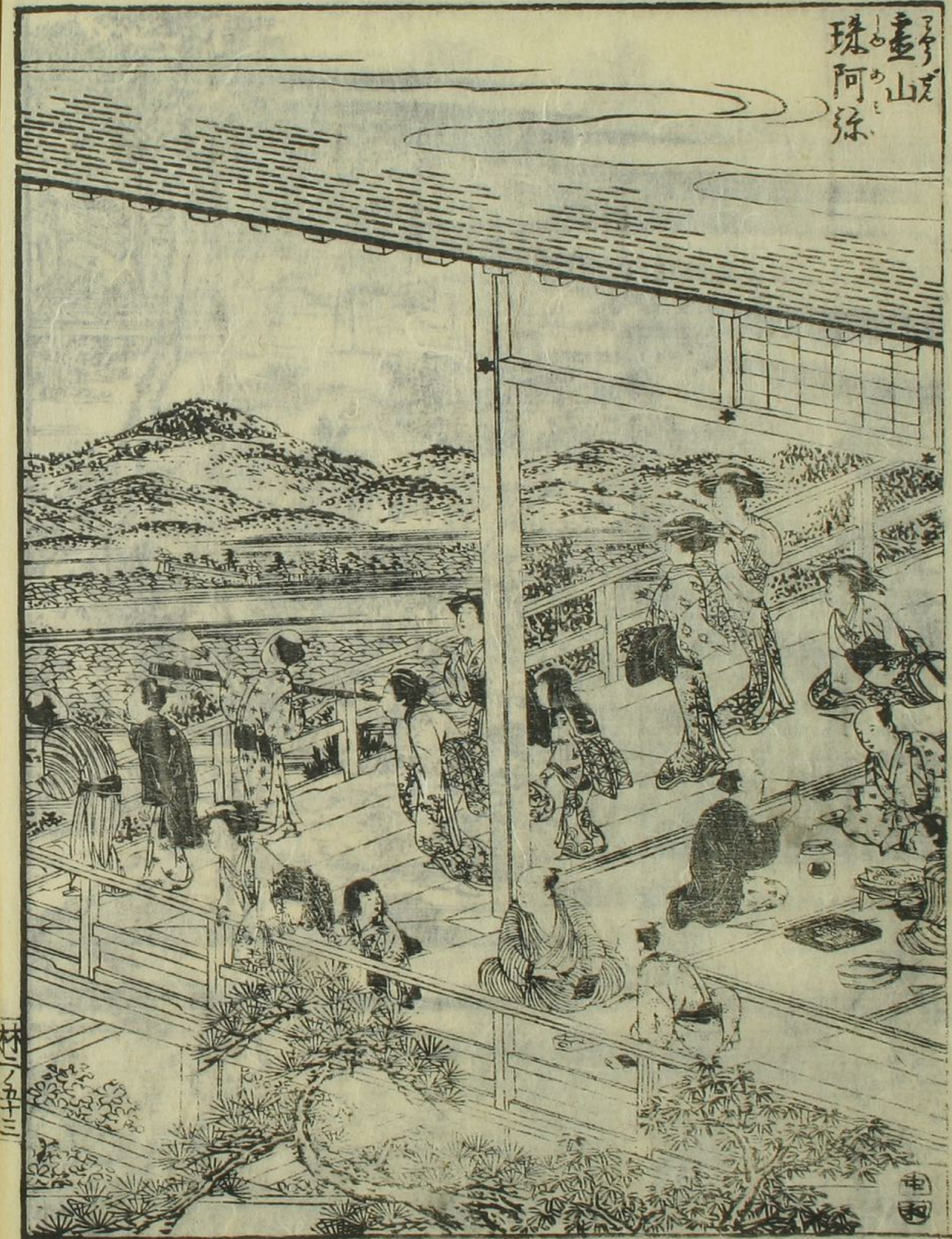


林二五十二





春風小  
 吹く  
 阿蘇塔  
 月夜



阿蘇山  
 珠阿蘇

五十三

中





祇園清水  
善徳の  
膳屋  
呂輪

善徳

善徳山

林二辛四



靈山  
巖阿彌  
長嘯接

善徳山

阿彌

山寺



下河原  
宴席

女伶の會



美し  
花の  
梅  
外

班井

題二妓舞

東山妖態舞媚之翡翠參差  
振翼翩鬢髮縮雲媚衛氏細腰  
帶穀美麗燕歌纏心地情非  
調徹耳根思幾千縱使謝公  
道此城胡為志禦北方邊

洲廬女孫  
能谷氏貞蘭





靈山

山頂小寺あり正法寺と云ふ山概記云治承二年十一月佛寺七十四箇所  
の其一と云ふ藤原朝靈山に藤原の詩無題詩に及ぶるわろ松原  
乃ひ和漢古今集不見ゆ又  
山中長嘯子の宅址あり

東山 冬景

三峯

荷田 信卿

樓閣 雪如塵一様 瑤光望裡新

東山

梅華 仙

不是 東山 謝家妓 婆娑 綈袂 素裙 人

東山 三月 競繁華 紅錦青羅人 似花

梅

文營

系中り 吹雪身のほろろ 茶の那

上人の本履 成かきん 夕くれ

竹花

職士

都林泉名勝圖會卷之貳終



早稲田大学図書館

011688994782